

年間授業計画

野津田 高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 国語 科目 現代の国語 （福祉科）

教 科： 国語 科 目： 現代の国語 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 2 学年 4 組

使用教科書： 現代の国語（第一学習社）

教科 国語 の目標：

【知 識 及 び 技 能】・語句の量を増やし語彙を豊かにする。
・具体例をもとに数え方の性質や特徴を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】・情報と情報の関係について理解を深める。

【学びに向かう力、人間性等】・日本語感覚を磨き、自分の表現に活用する。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話	聞	書					
1 学 期	A 理解編ー思考力、判断力を培う 「『生きもの』として生きる」（中村桂子） 「評論のしるべ ものの見方を変える」 【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 ・積極的に話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学習課題に沿って話し合おうとしている。	・指導事項 主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための展開について考えさせる。 ・教材 教科書「『生きもの』として生きる」（中村桂子） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント ・一人1 台端末の活用			○	【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用できる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握することができる。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 ・授業時のプリント（ワークシート）の取り組み状況	○	○	○	6
	B 表現編 言語活動「話し方の工夫」 【知識及び技能】 ・話し言葉と書き言葉の特徴、使い分けを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・論理展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の考えをスピーチしたり、それを聞いて、同意したり、質問できる。	・指導項目 発表を前提に各自教材を使用し資料を作成する。 ・教材 教科書「話し方の工夫」 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント ・一人1 台端末の活用			○	【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用できる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握することができる。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 ・積極的に話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学習課題に沿って話し合おうとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
	C 理解編ー思考力、判断力を培う 比較文化 「水の東西（山崎正和）」 「『間』の感覚（高階秀爾）」 【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 ・積極的に歌謡表現を理解し、学習課題に沿って使おうとしている。	・指導事項 ・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ・文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。 ・教材 教科書「水の東西」（山崎正和） 「『間』の感覚」（高階秀爾） 便覧 学習課題集 漢字ワーク			○	【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用できる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握することができる。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 ・授業時のプリント（ワークシート）の取り組み状況	○	○	○	10
	D 表現編ー伝える力を培う 言語活動「待遇表現」 【知識及び技能】 ・歌謡表現を意識した言葉遣いを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・歌謡表現が選択される視点を理解し、相手や場に応じた選択ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の考えをスピーチしたり、それを聞いて、同意したり、質問できる。	・指導項目 発表を前提に各自教材を使用し資料を作成する。 ・教材 教科書「待遇表現」 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント ・一人1 台端末の活用			○	【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用できる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学習課題に沿って話し合おうとしている。	○	○	○	9
	定期考査						○	○		1

2 学 期	理解編一思考力、判断力を培う 小説「羅生門（芥川龍之介）」 『文学のしらべ 映像の中の芥川龍之介』 【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・比喩などの修辭を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・主張と論拠など、情報と情報との関係を理解する。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・内容の解釈を踏まえて粘り強く下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫して書こうとしている。	・指導事項 作品の背景を踏まえた作品解釈を深め、各自教材を使用し、作品レポートを作成する。 ・教材 教科書 小説教材「羅生門」（芥川龍之介） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント ・一人1台端末の活用			【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用できる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ・比喩などの修辭を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握することができる。 ・読書の意義と効用を理解できる。 ・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・内容の解釈を踏まえて粘り強く下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫して書こうとしている。 ・授業時のプリント（ワークシート）の取り組み状況				8			
	表現編 言語活動「論理的な表現」 【知識及び技能】 ・論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・説得力を意識した表現の仕方について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分の考えをスピーチしたり、それを聞いて、同意したり、質問できる。	・指導事項 発表を前提に各自教材を使用し資料を作成する。 ・教材 教科書「論理的な表現」 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント ・一人1台端末の活用	○		【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用できる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで情報探索の重要性を理解し、学習課題に沿って情報を探そうとしている。				7			
	定期考査							○	○		1	
2 学 期	理解編一思考力、判断力を培う 「無色の色（港千尋）」 『「文化」としての科学（池内丁）」 【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 ・情報の妥当性を具体的に検討し、学習課題に沿って情報を探そうとしている。	・指導事項 ・日本文化について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理する。 ・教材 教科書 「無色の色」（港千尋） 『「文化」としての科学』（池内丁） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント ・一人1台端末の活用		○	【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用できる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握することができる。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。			○	○	○	14	
	理解編一思考力、判断力を培う 小説「夢十夜（夏目漱石）」 【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。	・指導事項 「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解くなどして、自分の意見や考えを記述する。 ・教材 教科書 小説教材「夢十夜」（夏目漱石） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント ・一人1台端末の活用	○		【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用できる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ・比喩などの修辭を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解くなどして、自分の意見や考えを記述できる。			○			11	
	定期考査								○	○		1
3 学 期	理解編一思考力、判断力を培う 情報・メディア 「現代の『世論操作』（林 香里）」 「鏡（村上春樹）」 【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。	・指導事項 ・情報やメディアの現状について述べた文章を読み、自分の意見や考えを記述する。 ・恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解くなどして、自分の意見や考えを記述する。 ・教材 教科書「現代の『世論操作』（林 香里）」 小説教材「鏡」（村上春樹） 学習課題集 漢字ワーク プリント ・一人1台端末の活用	○		【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用できる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握することができる。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。			○	○	○	15	
	表現編一伝える力を培う 言語活動「情報源の明示」 【知識及び技能】 ・論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・説得力を意識した表現の仕方について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分の考えをスピーチしたり、それを聞いて、同意したり、質問できる。	・指導事項 発表を前提に各自教材を使用し資料を作成する。 ・教材 教科書「情報源の明示」 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント ・一人1台端末の活用	○		【知識及び技能】 ・常用漢字を文や文章の中で活用できる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・情報源の重要性を理解し、学習課題に沿って情報を探そうとしている。			○	○	○	14	
	定期考査								○	○		1
											合計	105

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 国語 科目 文学国語 （普通科）

教 科： 国語 科 目： 文学国語 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 3 組

使用教科書： （ 標準 文学国語（第一学習社） ）

教科 国語 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】
- ・語句の量を増やし語彙を豊かにする。
・具体例をもとに数え方の性質や特徴を理解する。

- 【思考力、判断力、表現力等】
- ・情報と情報の関係について理解を深める。

- 【学びに向かう力、人間性等】
- ・日本語感覚を磨き、自分の表現に活用する。

科目 文学国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配当 時数
			話	聞	書	読					
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 「少年」との交流による「私」の心理の変化と、デュークの死を受け入れるまでの過程を読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 「少年」との交流を通して「私」の心情がどう変化しているかを粘り強く捉え、主人公の悲しみが表現されている部分を参考にして自分なりの悲しみの表現を積極的に考えて発表しようとしている。	・指導事項 内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 ・教材 教科書「デューク」（江國香織） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント				○	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文学的な文章の種類や特徴について理解を深める。 ・「私」の行動を整理し、「少年」との交流を通して「私」の心情がどう変化しているかを粘り強く捉えようとしている。	○	○	○	7
	定期考査							○	○		1
	B 単元 【知識及び技能】 本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 全体の構成を把握しながら、鼻が変化した内供と、彼を取り巻く人々の複雑な心理を理解している。 【学びに向かう力、人間性等】 内供と、彼を取り巻く人々の心理や態度を読み取るだけでなく、『今昔物語集』も粘り強く読み取り、作者の工夫をまとめようとしている。	・指導事項 鼻が変化した内供と、彼を取り巻く人々の心理の複雑さを、構成を把握しながら読み解く。 ・教材 教科書「鼻」（芥川龍之介） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント				○	・内供の鼻の変化と心情の変化を粘り強く読み取ろうとしている。 ・内供を取り巻く人々の心理や態度を積極的に読み取ろうとしている。	○	○	○	8
	C単元 【知識及び技能】 本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 最後の場面の「僕」に対する自分の考えを「お客さん」のせりふとして書き、相互批評することで自分の文章の特長や課題を捉え直している。 【学びに向かう力、人間性等】 時系列に沿って登場人物間の関係や心情を粘り強く読み取り、「僕」に対する自分の考えを「お客さん」のせりふとして、表現を工夫して書こうとしている。	・指導事項 登場人物同士の関係や心情を把握しながら読み、「僕」の発言の背景にあるものを理解する。 ・教材 教科書「バグダッドの靴磨き」（米原万里） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント				○ ○	・時系列に沿って登場人物間の関係や心情を粘り強く読み取り、「僕」の発言の背景を理解しようとしている。 ・「僕」が拳銃を買おうとしていることに対する自分の考えを「お客さん」のせりふとして表現を工夫して書こうとしている。	○	○	○	7
	定期考査							○	○		1

2 学 期	D 単元 【知識及び技能】 本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 日本の伝統文化を論じた文章に触れ、抽象的な内容がどのように説明されているか理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く随想を読むことで本文の構成・展開や表現について理解しようとしており、自然・芸術に対するものの見方についても積極的に理解を深めようとしている。	・指導事項 内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 ・教材 教科書「花のいざない」（観世寿夫） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○	・粘り強く随想を読み、学習課題に沿って、その構成・展開や表現について説明しようとしている。 ・花が人の心にどのような影響をもたらしているかについて、積極的に考えを發表し合うことで、自然に対するものの見方について理解を深めようとしている。	○	○	○	8
	E 単元 【知識及び技能】 言葉には想像や心情を豊かにする働きがあること、文学的文章における文体の特徴や表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 物語が人間にとって持つ意味を考え、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫して物語を創作し、さらに相互批評から適切に自分の文章の特長や課題を捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 本文中の例を参考にして積極的に物語を創作しようとしている。相互批評では他の生徒からの批評を前向きに捉え、自分が創作した物語の特長や課題を明らかにしようとしている。	・指導事項 文体や表現の技法に注意して、人物の心情や情景を描写する方法を学ぶ。 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫する方法を学ぶ。 ・教材 教科書「物語を創造する」（佐藤雅彦） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○	・本文中の例を参考にして、学習課題に沿って積極的に物語を創作しようとしている。 ・他の生徒が創作した物語を、評価の観点に沿って適切に批評しようとしている。 ・他の生徒からの批評を前向きに捉え、自分が創作した物語の特長や課題を明らかにしようとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
	F 単元 【知識及び技能】 本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 作品中の表現に注意しながら、「私」が幹生の目が見つめていたものに気づくまでの心情の変化を把握する。 ・教材 教科書「ひよこの眼」（山田詠美） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント	・指導事項 作品中の表現に注意しながら、「私」が幹生の目が見つめていたものに気づくまでの心情の変化を把握する。 ・教材 教科書「ひよこの眼」（山田詠美） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○	・表現に注意しながら場面の展開を粘り強く読み取り、「私」の幹生に対する心情変化を捉えようとしている。 ・最後の段落の「私」の思いについて、自分の考えを積極的に文章にまとめようとしている。				7
	G 単元 【知識及び技能】 詩というジャンルの特徴や表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 「汚れつちまつた悲しみ」とは何か、詩中の表現をもとにして考え、詩の内容と韻律を深く味わう。 詩の中の自然の描かれ方に注目し、「いもうと」と「わたくし」それぞれの心情を想像しながら味わっている。 文語詩に親しみ、多様な隠喩を通して「こころ」を描き出す、イメージの豊かさを味わう。 【学びに向かう力、人間性等】 象徴的な表現を読み取り、進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。	・指導事項 内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 ・教材 教科書「こころ」（萩原朔太郎） 「汚れつちまつた悲しみに……」（中原中也） 「永訣の朝」（宮沢賢治） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○	・繰り返し音読し、積極的に詩の構成やリズムを理解しようとしている。 ・象徴的な表現を読み取り、進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。				7
	定期考査						○	○		1

[illegible]

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 国語 科目 文学国語（体育科）

教 科： 国語 科 目： 文学国語 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 5組

使用教科書：（標準 文学国語（第一学習社））

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 文学国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 「少年」との交流による「私」の心理の変化と、デュークの死を受け入れるまでの過程を読み取る。 【学びに向かう力、人間性等】 「少年」との交流を通して「私」の心情がどう変化しているかを粘り強く捉え、主人公の悲しみが表現されている部分を参考にして自分なりの悲しみの表現を積極的に考えて発表しようとしている。	・指導事項 内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 ・教材 教科書「デューク」（江國香織） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文学的な文章の種類や特徴について理解を深める。 ・「私」の行動を整理し、「少年」との交流を通して「私」の心情がどう変化しているかを粘り強く捉えようとしている。	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1
	B 単元 【知識及び技能】 本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 全体の構成を把握しながら、鼻が変化した内供と、彼を取り巻く人々の複雑な心理を理解している。 【学びに向かう力、人間性等】 内供と、彼を取り巻く人々の心理や態度を読み取るだけでなく、『今昔物語集』も粘り強く読み取り、作者の工夫をまとめようとしている。	・指導事項 鼻が変化した内供と、彼を取り巻く人々の心理の複雑さを、構成を把握しながら読み解く。 ・教材 教科書「鼻」（芥川龍之介） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○	・内供の鼻の変化と心情の変化を粘り強く読み取ろうとしている。 ・内供を取り巻く人々の心理や態度を積極的に読み取ろうとしている。	○	○	○	8
	C単元 【知識及び技能】 本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 最後の場面の「僕」に対する自分の考えを「お客さん」のせりふとして書き、相互批評することで自分の文章の特長や課題を捉え直している。 【学びに向かう力、人間性等】 時系列に沿って登場人物間の関係や心情を粘り強く読み取り、「僕」に対する自分の考えを「お客さん」のせりふとして、表現を工夫して書こうとしている。	・指導事項 登場人物同士の関係や心情を把握しながら読み、「僕」の発言の背景にあるものを理解する。 ・教材 教科書「バグダッドの靴磨き」（米原万里） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○ ○	・時系列に沿って登場人物間の関係や心情を粘り強く読み取り、「僕」の発言の背景を理解しようとしている。 ・「僕」が拳銃を買おうとしていることに対する自分の考えを「お客さん」のせりふとして表現を工夫して書こうとしている。	○	○	○	7
	定期考査						○	○		1

2 学 期	D 単元 【知識及び技能】 本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 日本の伝統文化を論じた文章に触れ、抽象的な内容がどのように説明されているか理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く随想を読むことで本文の構成・展開や表現について理解しようとしており、自然・芸術に対するものの見方についても積極的に理解を深めようとしている。	・指導事項 内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 ・教材 教科書「花のいざない」（観世寿夫） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○	・粘り強く随想を読み、学習課題に沿って、その構成・展開や表現について説明しようとしている。 ・花が人の心にどのような影響をもたらしているかについて、積極的に考えを発表し合うことで、自然に対するものの見方について理解を深めようとしている。	○	○	○	8
	E 単元 【知識及び技能】 言葉には想像や心情を豊かにする働きがあること、文学的文章における文体の特徴や表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 物語が人間にとって持つ意味を考え、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫して物語を創作し、さらに相互批評から適切に自分の文章の特長や課題を捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 本文中の例を参考にして積極的に物語を創作しようとしている。相互批評では他の生徒からの批評を前向きに捉え、自分が創作した物語の特長や課題を明らかにしようとしている。	・指導事項 文体や表現の技法に注意して、人物の心情や情景を描写する方法を学ぶ。 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫する方法を学ぶ。 ・教材 教科書「物語を創造する」（佐藤雅彦） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○	・本文中の例を参考にして、学習課題に沿って積極的に物語を創作しようとしている。 ・他の生徒が創作した物語を、評価の観点に沿って適切に批評しようとしている。 ・他の生徒からの批評を前向きに捉え、自分が創作した物語の特長や課題を明らかにしようとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
	F 単元 【知識及び技能】 本文中に登場する、情景や心情の機微を表す語句・語彙、表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 作品中の表現に注意しながら、「私」が幹生の目が見つめていたものに気づくまでの心情の変化を把握する。 ・教材 教科書「ひよこの眼」（山田詠美） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント	・指導事項 作品中の表現に注意しながら、「私」が幹生の目が見つめていたものに気づくまでの心情の変化を把握する。 ・教材 教科書「ひよこの眼」（山田詠美） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○	・表現に注意しながら場面の展開を粘り強く読み取り、「私」の幹生に対する心情変化を捉えようとしている。 ・最後の段落の「私」の思いについて、自分の考えを積極的に文章にまとめようとしている。				7
	G 単元 【知識及び技能】 詩というジャンルの特徴や表現の技法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 「汚れつちまつた悲しみ」とは何か、詩中の表現をもとにして考え、詩の内容と韻律を深く味わう。 詩の中の自然の描かれ方に注目し、「いもうと」と「わたくし」それぞれの心情を想像しながら味わっている。 文語詩に親しみ、多様な隠喩を通して「こころ」を描き出す、イメージの豊かさを味わう。 【学びに向かう力、人間性等】 象徴的な表現を読み取り、進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。	・指導事項 内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 ・教材 教科書「こころ」（萩原朔太郎） 「汚れつちまつた悲しみに……」（中原中也） 「永訣の朝」（宮沢賢治） 便覧 学習課題集 漢字ワーク プリント			○	・繰り返し音読し、積極的に詩の構成やリズムを理解しようとしている。 ・象徴的な表現を読み取り、進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを理解しようとしている。				7
	定期考査						○	○		1

[illegible]

野津田高等学校 令和7年度（2学年用） 教科国語 科目 古典探究 （普通科）

教科：国語 科目：古典探究 単位数：2 単位
対象学年組：第2学年 1組～3組
教科担当者：（1組：松田）（2組：松田）（3組：松田）（5組：松田）
使用教科書：（「高等学校 標準古典探究」第一学習社版）
教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理
【思考力、判断力、表現力等】論理的思考力や深い共感性、豊かな想像力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや
【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって古典に親しみ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め
科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
			話・聞	書	読						
1 学 期	伊勢物語 【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・歌物語の特徴について理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物語の中で和歌が果たしている役割を押さえ、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。	・授業での取り組み ・プリント ・発問評価 ・テスト ・一人一台端末の活用	○		○	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。		○	○		9
	定期考査							○	○		1
		方丈記 【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・鎌倉初期という時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深める。 ・和漢混雑文で書かれた随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れた無常観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・文体の歴史的背景をふまえて『方丈記』を読み、学習課題に沿って、表現の特色を評価しようとしている。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人1台端末の活用 等	○		○	【知識及び技能】 ・古典の作品に表れている、言葉の響きやリズムなどの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・必要に応じて書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れた無常観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・文体の歴史的背景をふまえて『方丈記』を読み、学習課題に沿って、表現の特色を評価しようとしている。		○	○	○

2 学 期	徒然草 【知識及び技能】 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・作者の鋭い観察眼を通して綴られた・作者の鋭い観察眼を通して綴られた、世の諸事象に関する随筆を読んで、ものの見方・考え方を深める。 ・随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。、世の諸事象に関する随筆を読んで、ものの見方・考え方を深める。 ・随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・随筆に表れた作者の考えを積極的に読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・作品に表れた我が国の中世的なものの見方、考え方に対して、学習の見通しをもって理解を深めようとしている。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・随筆に表れた作者の考えを積極的に読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・作品に表れた我が国の中世的なものの見方、考え方に対して、学習の見通しをもって理解を深めようとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
	小式部内侍と和泉式部 【知識及び技能】 ・文語のきまりについて理解を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・『古今著聞集』の「小式部内侍が大江山の歌の事」に関連させて、著名な歌人である母和泉式部と小式部内侍との親子関係を調査する。 ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・学習の見通しをもって、小式部内侍と和泉式部に関する資料を、図書館の資料などを用いて、進んで調べようとしている。 ・集めた作品の内容を解釈し、小式部内侍と和泉式部の親子関係について考えたことを積極的に説明しようとしている。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、展開を的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に説話を読み、成範の機転とはどのようなことであっか理解を深めようとしている。 ・助動詞「る」「らる」の意味を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。				11
	定期考査						○	○		1
	源氏物語 【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める 【思考力、判断力、表現力等】 ・古典の最高峰と言われる作品に触れ、登場人物の思いを通して、ものの見方や考え方を深める。 ・古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れたもののあわれの世界観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・歴史的背景をふまえて『源氏物語』を読み、学習課題に沿って、表現の特色を評価しようとしている。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。				10
	定期考査						○	○		1

3 学 期	鴻門の会、四面楚歌 【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【学びに向かう力、人間性等】 古語の意味を進んで調査するとともに、その由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・訓読のきまりについて理解を深め、書き下し文として読むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ・故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・物語を楽しむつつ、人間の欲望や策略、他者を大切に思う気持ちなど、人の心には違いが無いことに気づき、極限におかれた心情を理解しようとしている。 ・故事成語の意味を進んで調査するとともに、その由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。。	○	○	○	15
	定期考査						○	○		1
	言語活動 劉邦の人物像 【知識・技能】 ・鴻門の会、四面楚歌に至る時代背景を調べ、項羽と劉邦の人物像を比較する。 【思考力・判断力・表現力】 ・項羽の挫折と劉邦の成功の相違点を考え、考えをまとめ、発表する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・他者の考えにも傾聴し、人間のあり方に思いを寄せるとともに、古典学習の意味について考える。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・一人1台端末の活用 等				言語活動 劉邦の人物像 【知識・技能】 ・時代背景を調べ、項羽と劉邦の生き方の違いを比較する。 【思考力・判断力・表現力】 ・項羽の挫折と劉邦の成功の相違点を考え、考えをまとめ、発表する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・他者の考えにも傾聴し、人間のあり方に思いを寄せるとともに、古典学習の意味について考える。				4
合計										70

野津田高等学校 令和7年度（2学年用） 教科国語 科目 古典探究（体育科）

教科：国語 科目：古典探究 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～3組

教科担当者：（1組：松田）（2組：松田）（3組：松田）（5組：松田）

使用教科書：（「高等学校 標準古典探究」第一学習社版）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理

【思考力、判断力、表現力等】論理的思考力や深い共感力、豊かな想像力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって古典に親しみ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価基準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読						
1 学 期	伊勢物語 【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・歌物語の特徴について理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物語の中で和歌が果たしている役割を押さえ、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。	・授業での取り組み ・プリント ・発問評価 ・テスト ・一人一台端末の活用	○		○	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。		○	○	○	9
	定期考査							○	○		1
	方丈記 【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・鎌倉初期という時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深める。 ・和漢混雑文で書かれた随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れた無常観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・文体の歴史的背景をふまえて『方丈記』を読み、学習課題に沿って、表現の特色を評価しようとしている。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人1台端末の活用 等	○		○ ○	【知識及び技能】 ・古典の作品に表れている、言葉の響きやリズムなどの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・必要に応じて書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れた無常観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・文体の歴史的背景をふまえて『方丈記』を読み、学習課題に沿って、表現の特色を評価しようとしている。		○	○	○	8

2 学 期	徒然草 【知識及び技能】 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・作者の鋭い観察眼を通して綴られた・作者の鋭い観察眼を通して綴られた、世の諸事象に関する随筆を読んで、ものの見方・考え方を深める。 ・随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。、世の諸事象に関する随筆を読んで、ものの見方・考え方を深める。 ・随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・随筆に表れた作者の考えを積極的に読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・作品に表れた我が国の中世的なものの見方、考え方に対して、学習の見通しをもって理解を深めようとしている。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・随筆に表れた作者の考えを積極的に読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・作品に表れた我が国の中世的なものの見方、考え方に対して、学習の見通しをもって理解を深めようとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
	小式部内侍と和泉式部 【知識及び技能】 ・文語のきまりについて理解を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・『古今著聞集』の「小式部内侍が大江山の歌の事」に関連させて、著名な歌人である母和泉式部と小式部内侍との親子関係を調査する。 ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・学習の見通しをもって、小式部内侍と和泉式部に関する資料を、図書館の資料などを用いて、進んで調べようとしている。 ・集めた作品の内容を解釈し、小式部内侍と和泉式部の親子関係について考えたことを積極的に説明しようとしている。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、展開を的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に説話を読み、成範の機転とはどのようなことであつたか理解を深めようとしている。 ・助動詞「る」「らる」の意味を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。				11
	定期考査						○	○		1
	源氏物語 【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める 【思考力、判断力、表現力等】 ・古典の最高峰と言われる作品に触れ、登場人物の思いを通して、ものの見方や考え方を深める。 ・古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れたもののあわれの世界観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・歴史的背景をふまえて『源氏物語』を読み、学習課題に沿って、表現の特色を評価しようとしている。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。				10
	定期考査						○	○		1

3 学 期	鴻門の会、四面楚歌 【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【学びに向かう力、人間性等】 古語の意味を進んで調査するとともに、その由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・訓読のきまりについて理解を深め、書き下し文として読むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ・故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・物語を楽しむつつ、人間の欲望や策略、他者を大切に思う気持ちなど、人の心には違いが無いことに気づき、極限におかれた心情を理解しようとしている。 ・故事成語の意味を進んで調査するとともに、その由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。。	○	○	○	15
	定期考査						○	○		1
	言語活動 劉邦の人物像 【知識・技能】 ・鴻門の会、四面楚歌に至る時代背景を調べ、項羽と劉邦の人物像を比較する。 【思考力・判断力・表現力】 ・項羽の挫折と劉邦の成功の相違点を考え、考えをまとめ、発表する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・他者の考えにも傾聴し、人間のあり方に思いを寄せるとともに、古典学習の意味について考える。	・指導事項 ・授業での取り組み ・発問評価 ・ノート ・一人1台端末の活用 等				言語活動 劉邦の人物像 【知識・技能】 ・時代背景を調べ、項羽と劉邦の生き方の違いを比較する。 【思考力・判断力・表現力】 ・項羽の挫折と劉邦の成功の相違点を考え、考えをまとめ、発表する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・他者の考えにも傾聴し、人間のあり方に思いを寄せるとともに、古典学習の意味について考える。				4
合計										70

野津田 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 地理総合

教 科： 地理歴史 科 目： 地理総合 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 4 組

使用教科書：「地理総合 世界に学び地域へつなぐ」、「新詳高等地図」

教科 地理歴史

の目標：

【知 識 及 び 技 能】

現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理総合

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようすることの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、日常生活における時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。	第1章 地図とGISの活用					
		第1節 球面上の世界	地球上での位置、太陽高度の変化、緯度経度のしくみ、時差の計算について理解できたか。	○			3
			球体としての地球の観点から、図を活用して地球上の位置や時差のしくみを捉え、説明できたか。		○		
		球体としての地球の把握に向け意欲的に探究し、作業や考察に取り組むことができたか。			○		
	・図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。 ・グローバルな立場から日本の領域を理解するために、国境や国家の領域の世界的な基準を捉えながら、日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考える。	第2節 日本の位置と領域	世界地図の主な図法と利用について理解し、国家の領域に関する知識を身につけ、日本の領土問題について歴史的背景と空間的広がりを理解できたか。 世界地図を図法の違いにより使い分けること、日本の位置と領域について世界的視野から捉え、日本の領域をめぐる問題を考察できたか。	○			4
			様々な世界地図の違いに関心を持ち、資料などから様々な世界地図の存在に気づくこと、日本の領域に関する問題について、意欲的に探究し、海洋資源の問題とともに考えることができたか。			○	
	・グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。 ・交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につける。 ・グローバルな視点から持続可能な社会の形成のために、資料を根拠として示しながら課題解決のための方策を多面的・多角的に考える。	第3節 国内や国家間の結びつき	人・モノ・情報の結びつきに関する知識や、統計資料から分布や変化などの特徴を見出す技能を身につけたか。主題に対して適切な統計地図を作成できたか。 複数の統計地図を結びつけ、世界の結びつきや偏りについて考察したことを説明できたか。地図で示す主題によって統計地図の表現方法が異なることを考察できたか。 統計資料を意欲的に読み取り、それを表現できたか。統計地図の作成に意欲的に取り組むことができたか。	○			6
						○	
						○	
	・身近な地図を集め、それらの地図の特徴を捉え、地図情報の有用性を理解する。 ・地図情報を活用する方法として、紙地図と電子地図としてのGISがあることを理解し、地理院地図や地形図を通して認識する。 ・GISが日常生活にも利用されている実例を捉え、大量の地理情報を処理できるGISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。 ・GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法と技能を身につける。	第4節 暮らしのなかの地図とGIS	GISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解し、GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法を身につけたか。地理院地図などインターネット上のGISの機能を利用し、地理空間情報を活用できたか。 身近な地図について、目的により表現方法に違いがあることが判断できたか。紙の地形図と電子地図の用途や活用について、地図の有用性の観点からそれぞれの長所を考察できたか。 身の回りの地図に興味を持ち、意欲的に地図の知識を活用できたか。GISの作業に意欲的に取り組み、GISで作成した地図から地域の特徴を分析しようとしたか。	○			4
						○	
						○	
	第2章 地理的環境の特色						
	・世界の大地形の広がりやプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し、変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。 ・河川、海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり、およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。	第1節 地形と生活文化	地形についての知識を身につけ、世界的視野から地形の分布の特徴、および地形図から等高線や地図記号などを判読し、地形の特徴や土地利用を捉えることができたか。 世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ、世界の地形配置と比較し、また生活している地域の特徴について、写真、地形図などから捉え、人間生活との関連を考察できたか。 地形図や分布図、写真、模式図の読み取りに意欲的に取り組んだか。地形図を用いた作業に意欲的に取り組み、地形と人間生活とのつながりを捉えようとしたか。	○			4
					○		
						○	

	・世界的な視野から大気や海流が循環するしくみを捉え、地球上ではそれらの影響を反映した気候の地域性が生まれていることを理解する。 ・降水量と気温の特徴をふまながら世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などの人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。 ・熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつのか、どのような生活の工夫があるのか、写真や雨温図などの資料から考える。	第2節 気候と生活文化	大気の大循環と海洋に起因した大気のしくみ、各気候の分布の特徴を理解できたか。雨温図や写真から情報を抽出し、各気候と植生の対応や、それらが関連した人々の生活の特徴を読み取り、整理できたか。	○			5	
			世界規模の大気のしくみが人間生活に影響していること、気候の分布の規則性を気候区分図をもとに考察できたか。写真などの資料をもとに、各気候により景観が異なることを捉え、農業や生活への影響を、資料をもとに考察できたか。		○			
			雨温図や写真の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化の対応について意欲的に探究できたか。雨温図やハイスカーグラフなどの気候資料の作成に意欲的に取り組んだか。			○		
	・世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける第1次産業、第2次産業、第3次産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・産業の発達と生活文化がどのようにかわるのか、産業はどのように変化してきているのか、主題図などの資料を通じて理解を深める。	第3節 産業と生活文化	世界の視野からみた産業の特徴と分布を概観できたか。主題図や写真、グラフ、統計資料から世界の産業の分布と発達を捉えることができたか。 自然環境が産業の形成に関わっていることを資料をもとに考察できたか。世界の産業の変化をグローバル化の観点で考察できたか。 身近な商品が世界規模の産業構造の中に位置づけられることを意欲的に探究できたか。産業が発達し続けていることを、時事的話題とともに意欲的に捉えようとしたか。	○		○	4	
					○			
						○		
	・世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。 ・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。	第4節 宗教・言語と生活文化	世界の多様性を理解し、異文化を尊重する姿勢が重要であることを理解したか。主題図や写真、グラフ、統計資料から世界の宗教の分布と特徴を捉えることができたか。 生活と宗教の関わりについて地域性や歴史的背景をもとに捉え、また世界的な難民と移民の問題を地図などの資料から捉え、考察できたか。 世界の宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどと関連させて追究できたか。難民と移民の問題構造を調べ、難民問題の解決策を意欲的に探究できたか。	○		○	3	
					○			
						○		
	第3章 世界各地の生活文化							
	・社会経済システムの変化に焦点を当て、東アジアの中国と韓国を例に両国の特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。 ・特に世界や日本、中国、韓国の3か国とのつながりから両国の経済発展の発達過程について理解し、経済発展の結果として起きている様々な問題について生活文化と対応させながら考える。	第1節 経済発展と生活文化の変化～東アジア	図版や写真から社会経済システムの特徴と変化を捉え、課題を整理できたか。中国や韓国を例に経済発展が生活文化に与えた影響について理解できたか。 中国や韓国の工業の発達に伴う人口や環境などへの影響について、主題図などの資料をもとに考察できたか。日中韓の連携を学習内容から見出し、新しい関係づくりを捉えることができたか。 身の回りの中国や韓国の商品を意欲的に調べ、中国や韓国の経済成長と課題について、日本を含めた日中韓の貿易や観光などの経済的な関係を意欲的に探究できたか。	○		○	4	
						○		
	・多民族社会と地域統合に焦点を当て、様々な言語や宗教をもつ東南アジア諸国の人々の生活文化にはどのような特色がみられるのか、主題図や写真などの資料をもとに理解する。 ・特に仏教、イスラム教、キリスト教の各文化圏における生活文化の多様性や多言語・多民族社会の様子、また豊かな資源を背景に経済発展を遂げるASEAN諸国の現状と課題について考える。	第2節 宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国	地形についての知識を身につけ、世界的視野から地形の分布の特徴、および地形図から等高線や地図記号などを判読し、地形の特徴や土地利用を捉えることができたか。 世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ、世界の地形配置と比較し、また生活している地域の地形の特徴について、写真、地形図などから捉え、人間生活との関連を考察できたか。 地形図や分布図、写真、模式図の読み取りに意欲的に取り組んだか。地形図を用いた作業に意欲的に取り組み、地形と人間生活とのつながりを捉えようとしたか。	○		○	5	
						○		
	・水資源に焦点を当て、地形、気候などの自然環境を捉えながら、水資源と宗教、農業、文化や産業の成立の関わりを主題図やグラフなどの資料を通じて理解する。 ・経済成長を背景とした水資源の課題を周辺国とのつながりから考える。	第3節 水の恵みと生活文化～南アジア	図版や写真から自然環境を捉え、生活文化との対応や経済の変化を整理できたか。水の恵みを受けた農業と生活文化の関わりについて理解できたか。 インドを例に自然環境と農業のつながりを資料をもとに考察できたか。経済発展による生活文化の変化と、それに伴う水問題の課題について考察できたか。 生活文化と産業の進展の関連や市場経済の進展による自然環境への影響など、地域の課題を多角的、多面的に探究できたか。	○		○	2	
						○		
	・イスラームに焦点を当て、気候条件、宗派の違い、聖地メッカからの距離、エネルギー資源の有無などを基盤とした経済水準の違いについて理解する。 ・ムスリムの生活文化に差異をもたらしている要因を主題図や写真などの資料をもとに考える。 ・社会問題の例として、パレスチナやエルサレムの問題、少数民族の問題を民族・言語の分布から理解する。	第4節 イスラーム社会の多様性と生活文化～イスラーム圏	図版や写真からイスラームの特徴を捉え、自然環境と生活文化との対応、またイスラーム圏の課題を日本との関連をふまえて整理できたか。豊富なエネルギー資源による恵みと生活文化の変化を理解できたか。 写真に見られる共通性と異質性をまとめたうえで、写真と地図を組み合わせて考察し、イスラーム圏の生活文化を説明できたか。地域紛争の背景としての民族や宗教・宗派の違いについて考察できたか。 イスラーム圏の生活文化を意欲的に調べ、圏内の共通点や相違点を探究できたか。課題がどのように日本と関わっているかを考え、日本や自身が取り組むべきことは何かを追究できたか。	○		○	4	
						○		
	・自然環境と生活文化の対応とその多様さに焦点を当て、モノカルチャー経済の構造は残りながらも、多様性に富む自然環境や食文化をもち、資源開発などを背景とした近年の経済成長について主題図や写真などの資料を通じて理解する。 ・経済成長や開発などを背景としたアフリカの課題を自然環境と生活文化の関わりから考える。	第5節 多様な気候と生活文化～アフリカ	図版や写真から多様な自然環境の特徴を捉え、自然環境と生活文化との対応と地域の変化を整理できたか。生活文化を地形や気候と関連づけ、農業と食文化の関連について理解できたか。 地形、気候、歴史的背景とともに生活文化の多様性を考察できたか。経済成長による生活文化の変化と気候変動などをふまえ、アフリカの課題について捉え、課題やその対策を説明できたか。 食文化や生活の工夫を調べ、多様な自然環境の広がりとの対応を見出し、意欲的に探究できたか。アフリカの課題をまとめ、SDGsをふまえた課題解決策を考えたり調べたりできたか。	○		○	3	
						○		

2 学 期	- 産業の発達と地域統合に焦点を当て、ヨーロッパを例に多様性と一体化をもつ産業の特徴やその歴史的背景を捉え、気候、言語・宗教の分布などを関連させながら主題図やグラフなどの資料をもとに理解する。 - 地域統合の長所とともにイギリスのEU離脱や加盟各国の移民排斥の動きの強まりなどの課題を整理する。 - 地域間格差が生じている現状を捉え、これからのヨーロッパのよりよい社会を目指して課題について考える。	第6節 経済統合による生活文化の変化 ～EUと周辺諸国	図版や写真から産業の発達や地域統合を捉え、自然環境や言語、宗教と関連づけて整理できたか。産業の発達と地域統合が生活文化に与えた影響を理解できたか。言語や宗派の違いを乗り越えEUが統合する背景を理解できたか。	○			3	
			ヨーロッパの農業と気候との対応や工業地域の近年の変化について、主題図をもとに考察できたか。EUへの加盟国と離脱する国があることをふまえ、EU統合に伴う生活への影響を考察し、今後の課題について資料をもとに協議できたか。			○		
			農業、工業の特徴を捉えるとともに、気候や地域統合の広がりなど他の要素との関連に関心をもって意欲的に取り組むことができたか。言語・宗教の多様性と産業とを関連させながら地域統合とその課題について意欲的に探究できたか。			○		
	- 寒冷な自然環境に焦点を当て、ロシアを例に主題図やグラフなどの資料をもとに気候に制約を受ける農業など、自然環境と人々の生活との対応を理解する。 - 豊富な鉱物資源を背景にしたヨーロッパ諸国や日本など東アジアとの結びつきや近年の開発による自然環境への影響を考える。	第7節 寒冷な気候と生活文化 ～ロシア	図版や写真から寒冷な自然環境の特徴を捉え、生活文化や産業の発展と関連づけて整理できたか。周辺国との関連から産業の発展を捉え、経済発展が自然環境へもたらす影響を理解できたか。	○			3	
			寒冷な気候と生活文化との関連を捉え、開発が自然環境に与えた影響と課題について考察できたか。日本周辺の自然環境とシベリアのつながりを捉え、自然環境の変化による影響を協議できたか。			○		
		寒冷地域の自然環境と生活文化の相互の関連を捉え、ロシアの特徴を意欲的に追究できたか。経済と環境の両面をふまえた開発と自然環境の保全を意欲的に捉えることができたか。			○			
- 社会経済システムのグローバル化に焦点を当て、主題図や写真などの資料を通じて、民族構成から多様な社会と歴史的背景を理解する。 - 企業的農業の発達とアメリカ合衆国の外食産業やICT産業などの多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。 - アメリカ合衆国の貿易の問題についてグローバルな視点で考える。	第8節 グローバル化による生活文化の変化 ～アメリカ・カナダ	図版や写真からアメリカの産業を捉えながら、世界の生活文化や経済への影響を整理できたか。経済発展の基盤となる社会の多様性を捉え、アメリカの農業とグローバルな食文化との関係や産業の変化について理解できたか。	○			4		
		グローバルな観点やからアメリカの社会経済システムを主題図などの資料から捉え、世界の経済や生活文化への影響を考察できたか。産業や世界の貿易体制の変化を考察し、それに伴う世界やアメリカの課題について説明できたか。			○			
		アメリカの社会経済システムを農業、工業などの観点から多面的、多角的に捉え、世界への影響を意欲的に探究できたか。アメリカの貿易体制の葛藤を学習内容から意欲的に考え、世界への影響をふまえながら追究できたか。			○			
- 開発に焦点を当て、ラテンアメリカで様々な人びとが生活している理由やプランテーションをはじめ農業や鉱業などの産業の多様性がみられる理由について、主題図やグラフなどの資料をもとに多様な自然環境や植民地時代の開発の影響、そして近年の社会経済システムの変化から捉える。 - 鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の現状を捉え、その解決に向けた取り組みを考える。	第9節 土地の開発による生活文化 の形成～ラテンアメリカ	図版や写真から開発の背景を捉え、開発と自然環境、生活文化、産業との関わりを整理できたか。資料から開発により生じているラテンアメリカの課題を読み取ることができたか。	○			3		
		図版と写真から、自然環境と生活文化の共通性と異質性を開発の歴史から考察できたか。資源を背景とした経済発展とそれに伴う経済格差の現状について、課題とともに協議できたか。			○			
		自然環境と生活文化の相互の関連を捉え、開発の背景について意欲的に探究できたか。都市問題や経済問題、環境問題などについて意欲的に調べ、その要因と解決について協議できたか。			○			
- 開発に焦点を当て、オーストラリアとニュージーランドの自然環境の違いを比較し、主題図や写真などの資料から植民の歴史とそこに展開する産業を捉え、両国の生活文化の違いを理解する。 - オーストラリアとニュージーランドの生活文化の歴史的背景や現状と将来について、周辺国とのつながりや多文化社会と関連づけて考える。	第10節 植民と移民による生活文化 の形成～オセアニア	図版や写真から農業と鉱業の観点からみた開発の背景を比較しながら整理できたか。周辺国とのつながりや多文化社会への取り組みを理解できたか。	○			2		
		2つの国の開発の背景を比較し、共通点と相違点を考察できたか。開発とともに進んだ多民族化と多文化共生について資料をもとに考察できたか。			○			
		2つの国を比較して開発の背景を捉え、植民と移民による産業の進展を意欲的に探究できたか。2つの国の課題を整理し、貿易や移民の変化を追究できたか。			○			
第3章 地球的課題と国際協力								
	- 持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわる問題であることをSDGsをふまえて認識する。 - 深刻な地球環境問題を生じている大気汚染、森林減少、砂漠化、気候変動について事例をあげて捉え、それぞれの影響と将来の予測から解決の取り組みについて考える。	第1節 地球環境問題	持続可能な社会を目指すSDGsの目標と趣旨を理解できたか。国際機関のウェブサイトや主題図、統計資料などから、環境問題の現状や原因を情報収集できたか。環境問題の現状を捉え、原因や影響を図解して整理できたか。	○			2	
			世界のどこで、どのような地球環境問題が生じているのかを資料をもとにまとめ、持続可能な社会の実現に向けた提案ができたか。SDGsの目標をふまえ、海や陸の豊かさを守るための国際的な取り組みや具体的な対策を提言できたか。			○		
			地球環境問題のしくみや原因の理解とともに、地球市民の一人として、それらの問題が人々の生活に与える影響について意欲的に探究し、どのような行動ができるかを追究できたか。			○		

3 学 期	- 地球規模で起こる資源の問題について主題図などの資料をもとに考え、偏在して分布することで保有国と非保有国との間に格差があることを認識する。 - エネルギー資源の変化を捉えながら資源の大量消費によって枯渇の恐れがあることを認識し、これらの解決のための取り組みをSDGsと関連づけて考える。	第2節 資源・エネルギー問題	主題図から資源の分布が偏在していることを理解できたか。限りある資源の問題を解決するためのリサイクルや再生可能エネルギーのしくみを理解できたか。 主題図などをもとに鉱物資源とエネルギー資源の分布と今後の将来需要を予測し、SDGsの目標をふまえ今後必要な鉱物やエネルギーの利用について提案できたか。 日常利用されている鉱物資源やエネルギー資源を調べ、その輸入先やリサイクルなどの現状を意欲的に探究し、持続可能な利用について追究できたか。	○			2
	- 人口が急増している世界の現状を捉えらるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。 - 持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。	第3節 人口・食料問題	世界人口の増加で生じる問題を世界的視野から理解し、人口増加地域と人口停滞地域における人口問題の違いを整理できたか。人口資料をもとにした図版を読み取り分析することができたか。世界の食料問題を主題図などから現状を認識し、その自然的、社会的な背景を理解できたか。 世界の人口問題の現状を資料を比較しながらまとめ、日本の人口問題についての提言を他国と比較しながら考察できたか。飢餓と飽食の世界的な分布を主題図やグラフなどの資料から考察し、その背景とSDGsの目標をふまえ、とくに栄養不足人口が多いサブサハラを例として対策を協議できたか。 世界や主要国の人口の推移を捉え、他国の事例を参考にして日本と比較しながら人口問題について意欲的に探究できたか。人口問題と食料問題をそれぞれ捉えながら、両者のつながりを図表などを用いて意欲的に整理し、国際社会の一員として取り組む国際協力を具体的に追究できたか。	○			2
	- 世界では都市に人口が集まる現象がみられることを主題図やグラフから読み取り、人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえ理解する。 - 途上国の大都市を中心に人口集中に伴う問題が生じていることを捉え、問題の要因を理解しながら、都市の問題の改善を目指した都市計画を取り上げ、SDGsと関連づけ都市問題の解決策を考える。	第4節 居住・都市問題	世界の視野で都市人口率の増加を捉え、都市内部の視野で景観や場所による役割の違いをふまえながら都市の構造を理解できたか。人口が集中する都市で生じる問題と都市計画が行われた事例から問題の対策を整理できたか。 都市への人口集中を主題図やグラフから捉え、都市と農村の景観を比較しながら考察できたか。人口集中と都市問題の発生、途上国と先進国の都市問題を通じ、人口集中によって生じる諸問題を資料をもとに考察し、SDGsの目標とともに解決の方策や課題を提案できたか。 世界的な視野と地域的な視野で縮尺を変え、都市問題の事例をもとに多角的、多面的な視点で都市問題の構造を意欲的に探究できたか。途上国の都市問題について先進国での都市計画などを参考に、国際協力の立場で課題解決に結びつけることができたか。	○			2
	第4章 生活圏の諸課題						
	- 日本列島の地形と気候の特徴を主題図、グラフ、写真などの資料をもとに、多様性や自然の恩恵があることを認識しながら、自然災害を与える要素があることを理解する。 - 日本各地では毎年のように様々な自然災害が起きていることを理解するため、風水害、火山、地震・津波、都市型の災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能とともに捉える。 - 自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどうか、良いのかを考え、居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。	第1節 日本の自然災害と防災	日本の自然環境の特徴と生活文化との関わり、日本列島における自然災害について具体的事例を通じて、災害のしくみや特徴、地域性、防災への取り組み方や課題を理解できたか。地形図やハザードマップを活用し、防災と避難行動について考察する技能を身につけることができたか。 日本の自然環境と生活との関わりを主題図や写真から、また日本の自然環境の特徴を反映した自然災害が発生してきたことを資料から読み取り、それをふまえて自然災害時の対策を考察できたか。自らの生活圏の防災について、資料から適切に判断し、課題と避難行動を協議できたか。 自然環境の特徴と自然災害とのつながりを意欲的に探究し、過去の災害事例を調べることができたか。GISなどを活用し、自然災害への対策を意欲的に探究できたか。災害発生時の自助・共助・公助をふまえ、身近な地域で発生が予想される場面を想定して、意欲的に対策を検討できたか。	○			2
	- 日本が抱える地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 - 現地調査と統計資料によって得られた結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。 - 調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。	第2節 生活圏の諸課題と地域調査	地域的な課題についての調査法、統計資料を収集して、それを主題図に表現する方法、調査結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につけることができたか。 調査で得られた結果を、主題図や表などに整理できたか。得られた資料を根拠にして、地域の特徴や課題を見つけ、まちづくりのプランを構想できたか。 身近な地域に様々な課題があることを見出し、意欲的に主題図やグラフなどを資料を作成できたか。主題図などの調査結果を根拠にして、意欲的に地域の課題解決に向けたまちづくりのプランを検討し、発表できたか。	○			2
							合計
							78

野津田 高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 地理歴史 科目 歴史総合

教科 地理歴史 科目 歴史総合

単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 3 組、5 組

使用教科書：新選 歴史総合(東京書籍)

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
歴史の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる知識を増やし、歴史の理論について理解するとともに、諸資料から、歴史理解に必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	日本や世界の歴史的課題の理解のために、選択・判断の手がかりとなる考え方や歴史的な基本知識を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察したり、構想したことを議論している。	歴史に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚、我が国の歴史や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて歴史的な事象を通して深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 歴史の扉 1 節 歴史と私たち ○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。 2 節 歴史の特質と資料 ○日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 第2章 近代化と私たち 1 節 近代化への問い ○交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。	・指導事項 第1章 歴史の扉 1 節 歴史と私たち 2 節 歴史の特質と資料 第2章 近代化と私たち 1 節 近代化への問い	【知識・技能】 ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について、諸資料から、情報を適切に読み取ったり、まとめたりしている。 【思考・判断・表現】 ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現する。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 【学びに向かう力、人間性】 ・科目全体の学習の見通しを立て、課題を追究しようとしている。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について、学習の見通しを立て、課題を追究しようとしている。	○	○	○	15
	(定期考査)			○	○		1
	第2章 近代化と私たち 2 節 結びつく世界と日本の開国 ①18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ②産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。	・指導事項 第2章 近代化と私たち 2 節 結びつく世界と日本の開国 1 18世紀の東アジア 2 結びつくアジア諸地域 3 18世紀のヨーロッパとアジア 4 産業革命のはじまり 5 世界市場の形成 6 東アジア国際関係の変化と日本の開国 7 世界経済の変化と日本の産業革命	【知識・技能】 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 ・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、工業化と世界市場の形成を理解している。 【思考・判断・表現】 ・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性】 ・近代化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、中学校までの学習も振り返りながら課題を追究しようとしている。	○	○	○	19
	(定期考査)			○	○		1

	第2章 近代化と私たち 3節 国民国家と明治維新 ①国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解する。 ②帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 4節 近代化と現代的な諸課題 ○自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 (定期考査)	第2章 近代化と私たち 3節 国民国家と明治維新 1 市民革命と近代社会 2 自由主義とナショナリズム 3 アジアの諸国家とその変容 4 明治維新と東アジアの国際関係 5 立憲制の広まり 6 帝国主義と植民地 7 日清戦争と華夷秩序の解体 8 帝国主義諸国の競合と国際関係 9 植民地支配と植民地の近代 10 20世紀はじめの世界 4節 近代化と現代的な諸課題	【知識・技能】 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 ・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性】 ・近代化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。	○	○	○	20
			【学びに向かう力、人間性】 ・近代化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。	○	○		1
2 学 期	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い ○国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。 2節 第一次世界大戦と大衆社会 ①第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大战後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景や影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ②第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 (定期考査)	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会 1 大衆社会の時代 2 第一次世界大戦の展開 3 国際協調体制の形成 4 ソヴィエト連邦の成立と社会主義 5 アメリカ合衆国の台頭と大量消費社会 6 アジアの経済成長と移動する人々 7 反植民地主義の高揚と国際秩序の変容 8 民主主義の拡大と社会変革の動き 9 マスメディアの発達と日常生活	【知識・技能】 ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、諸資料から、情報を適切に読み取り、まとめたりしている。 ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 【思考・判断・表現】 ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大战後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景や影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、学習の見通しを立て、課題を追究しようとしている。 ・国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。	○	○	○	20
			【学びに向かう力、人間性等】 ・国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。	○	○		1

3 学 期	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3節 経済危機と第二次世界大戦 ①経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺を理解する。 ②第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 第4章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い ○冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。 2節 冷戦と世界経済 ①地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換などを表現する。 (定期考査)	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3節 経済危機と第二次世界大戦 1 世界恐慌 2 アジア・アフリカと大衆社会 3 国際協調体制の崩壊 4 日中戦争と深刻化する世界の危機 5 第二次世界大戦の勃発 6 第二次世界大戦における連合国と戦後構想 7 アジア太平洋戦争と日本の敗戦 8 連合国の占領政策と冷戦 9 再編されるアジアと冷戦 第4章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済 1 冷戦の拡大と第三勢力 2 キューバ危機と核兵器の管理 3 脱植民地化の進展と地域紛争 4 計画経済と開発 5 冷戦下の日本とアジア	【知識・技能】 ・世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、国際協調体制の動揺を理解している。 ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 【思考・判断・表現】 ・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。	○	○	○	26
				○	○		1
	合計						105

野津田 高等学校令和7年度（2学年用）教科 数学 科目 数学Ⅱ

教 科： 数学 科 目： 数学Ⅱ 単位数： 4 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 3 組

使用教科書： 実教出版 高校数学Ⅱ

教科 数学 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・極限、微分法及び積分法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深くとらえて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質などに着目し、問題解決の過程や結果を振り返って統合的に考察する力を身に付けている。	・数学の良さを認識し、積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章：複素数と方程式 【知識及び技能】 多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようになる。 【思考・判断・表現】 数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。	・指導事項 第1章 複素数と方程式 式の計算 複素数と2次方程式 高次方程式 式と証明 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 3次式の展開の公式を利用できる。 負の数の平方根を理解し、 i を用いて処理することができる。 【思考・判断・表現】 2次式の展開の公式を利用して、3次式の公式を導くことができる。 複素数の表記を理解し、複素数 $a + bi$ を実数 a と同一視できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 3乗に関わる展開の公式を自ら導こうとする。 数の範囲を実数から複素数へ拡張することについて、有理数から実数に拡張したことと関連させ、考察しようとする。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
	第2章 図形と方程式 【知識及び技能】 様々な図形についてその特徴を理解し方程式に直すことができるようにする。 【思考・判断・表現】 図形の特徴から座標や式を用いてその図形を数学的に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 図形及びそれを表す方程式から、その有用性を認識するとともに事象の考察に活用できるようにする。	・指導事項 第2章 図形と方程式 点と座標 直線の方程式 円の方程式 不等式の表す領域 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 数直線上において2点間の距離や線分の内分点・外分点を求めることができる。 座標平面上においても2点間の距離や線分の内分点・外分点を求めることができる。 【思考・判断・表現】 三角形の重心の性質を適切に利用できる。 円上のテント中心との距離が一定であることに着目し、円の方程式について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数直線上の点に関する公式を利用して、平面上の場合を考察しようとする。 x 、 y の2次方程式があらわす図形に興味・関心を持つ。	○	○	○	29
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第3章 いろいろな関数	・指導事項 第3章 いろいろな関数 三角関数 加法定理／弧度法 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 三角関数の性質を、単位円周上の点の座標によって考察することができる。 単位円周上の点の動きから、三角関数のグラフを考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察しようとする。 三角関数の性質を利用すれば、どんな角でも三角関数表を利用して値を求められることに関心を持ち、いろいろな値を調べようとする。	○	○	○	28
	定期考査			○	○		1
	第3章 いろいろな関数	・指導事項 第3章 いろいろな関数 指数関数 対数関数 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。 指数と対数とを相互に書き換えることができる。 【思考・判断・表現】 指数が、0や負の数、有理数の場合も指数法則が成り立つことを理解している。 指数法則を利用して、対数の性質を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 指数の範囲を0や負の数、有理数へと拡張する過程に関心を持ち、どのように定義すればよいかを調べようとする。	○	○	○	27
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第5章 微分と積分	・指導事項 第5章 微分と積分 微分の考え 積分の考え ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 関数の増減を接線の傾きから考察することができる。 微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 接線の傾きと微分係数との関係を図形的に考察しようとする。 平均の速さと瞬間の速さとの違いに興味を持ち、それらの違いや微分係数との関連について調べようとする。	○	○	○	25
	定期考査			○	○		1
							合計 140

野津田 高等学校令和7年度（2学年用）教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 4 組～ 5 組

使用教科書： 実教出版 新編 数学A

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確立についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に会食したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見出し、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動とのかわりに着目し、事象に数学の構造を見出し、数理的に考察する力を養う。	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 場合の数と確率 【知識及び技能】 集合の要素の個数を、数え上げること で求めることができるようになる。 【思考・判断・表現】 場合の数を求めるときの基本的な考 え方について理解を深めることがで きるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 場合の数を求める考え方を事象の考 察に活用できるようになる。	・指導事項 第1章 場合の数と確率 1節 場合の数 集合と要素 集合と要素の個数 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 共通部分や和集合、全体集合、補集合などの 集合に関する用語を理解し、それらを求める ことができる。 【思考・判断・表現】 条件を満たすものを集合の要素として考え、 表すことができる。 ものを数え上げるのに集合を利用して考察す ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 集合の考えについて興味を持ち、いろいろな 集合を表そうとする。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	第1章 場合の数と確率 【知識及び技能】 簡単な場合の数を、順列や組合せの 考えを利用して求めることができる ようになる。 【思考・判断・表現】 基地の考え方を活用するなどして順 列や組合せについて考察することが できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な事柄にも順列や組み合わせの 考え方が用いられること興味を持ち それらの事象の考察に活用できるよ うになる。	・指導事項 第1章 場合の数と確率 1節 場合の数 場合の数 順列 組合せ ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 順列や組合せの意味を理解し、公式を利用す ることができる。 さまざまな場合の数を順列や組合せの考えを 利用して求めることができる。 【思考・判断・表現】 順列の総数と組合せの総数の関係を理解し、 その総数を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 さまざまな場合の数を求めるのに、順列や組 合せの考え方が使えることに、興味・関心を もつ。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	第1章 場合の数と確率 【知識及び技能】 確率の意味と確率を求めるときの基 本的な法則についての理解を深め活 用できるようになる。 【思考・判断・表現】 物事の起こりやすさを同様に確から しいという概念をもとに数量的に考 察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 確率の意味や法則を事象の考察に活 用できるようにする。	・指導事項 第1章 場合の数と確率 2節 確率 事象と確率 確率の基本的性質 独立な試行とその確率 条件つき確率と乗法定理 期待値 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 確率の定義を理解し、簡単な確率を求めると ことができる。 確率の性質を理解している。 【思考・判断・表現】 試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合 と結び付けて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 理論上のサイコロと実生活におけるサイコロ の厳密性の違いを知ること、数学が理論的 な思考によって成り立っていることに興味・ 関心を持つ。	○	○	○	14

2 学 期	定期考査 第2章 図形の性質 【知識及び技能】 図形の基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや辺の長さを求めることができるようになる。 【思考・判断・表現】 角の大きさや辺の長さを求めるのに、図形のどの性質を使えばよいかが判断できるようになる。	・指導事項 第2章 図形の性質 1節 三角形の性質 三角形と線分の比 三角形の重心・内心・外心 メネラウスの定理とチェバの定理 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 角の二等分線と線分の長さの比の定理を理解し、それを用いてへんや線分の長さを求めることができる。 【思考・判断・表現】 三角形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。円周角の定理の逆を理解し、等しい角に着目して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 図形的基本的な性質についてすでに学んだ事	○	○		1
				○	○	○	13

	【学びに向かう力、人間性等】 平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。		象を思い出し、それらを活用できる場面を見出そうとしている。				
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第2章 図形の性質 【知識及び技能】 円に関する基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや線分の長さを求めることができるようになる。 【思考・判断・表現】 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質を見出し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 図形についてのさまざまな性質についてそれらを観察したり考察したりすることで、空間認識力の育成を図る。	・指導事項 第2章 図形の性質 2節 円の性質 円に内接する四角形 円の接線と弦のつくる角 方べきの定理 2つの円 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 円に内接する四角形の性質や方べきの定理などを理解し、角の大きさや線分の長さを求めることができる。 【思考・判断・表現】 円と直線を動的にとらえ、それらの位置関係を考察することができる。 多面体の頂点、辺、面の数に関して成り立つ性質を具体的な例によって確認し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 四角形が円に内接する条件に興味を持ち、考察しようとする。 相似を利用した方べきの定理の導き方に興味を持つ。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1 編 1 章 運動の表し方 【知識及び技能】 時刻と時間、移動距離と変位、速さと速度の違いを理解する。 v-t グラフ、x-t グラフの特徴を理解する。 運動の特徴やグラフで表したときの特徴を理解する。 自由落下や投げ上げ、投げ下ろしによる運動がどのような運動か理解し、その加速度について理解する。 物体の運動は水平方向と鉛直方向に分けて考えることができることを理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 その運動の特徴を考察し、グラフを用いて正確に表現する。 実験結果をどのように分析すればよいかを科学的に考察する。 自由落下運動や等加速度直線運動、投げ下ろした物体、投げ上げた物体、水平投射された物体の運動のようすを表す式の導き方を理解し、表現する。 【学びに向かう力・人間性等】 身近な物の運動に見られる現象について、自分の体験等を踏まえて考える。 中間考査	1 編 1 章 運動の表し方 ①運動の表し方 ②等速直線運動 ③合成速度と相対速度 ④直線運動の加速度 ⑤落体の運動 実験 教材 教科書、プリント 中間考査	1 編 1 章 運動の表し方 【知識及び技能】 時刻と時間、移動距離と変位、速さと速度の違いを理解している。 v-t グラフ、x-t グラフの特徴を理解している。 運動の特徴やグラフで表したときの特徴を理解している。 自由落下や投げ上げ、投げ下ろしによる運動がどのような運動か理解し、その加速度について理解している。 物体の運動は水平方向と鉛直方向に分けて考えることができることを理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 その運動の特徴を考察し、グラフを用いて正確に表現している。 実験結果をどのように分析すればよいかを科学的に考察している。 自由落下運動や等加速度直線運動、投げ下ろした物体、投げ上げた物体、水平投射された物体の運動のようすを表す式の導き方を理解し、表現している。 【学びに向かう力・人間性等】 身近な物の運動に見られる現象について、自分の体験等を踏まえて考えようとしている。 中間考査				
	1 編 2 章 さまざまな力とそれはたらき 【知識及び技能】 力の 3 要素と、2 つの力が物体にはたらくときの力のつり合いの条件について理解する。 力の合成と分解について、作図を通して理解する。 慣性の法則や運動方程式、作用・反作用の法則、物体にはたらく重力について理解する。 静止摩擦力と動摩擦力の共通点や相違点を理解する。 水中の物体にはたらく水圧や浮力と、アルキメデスの原理について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 物体にはたらく力、物体に生じる加速度、物体の質量についての関係を定量的に調べ実験結果を科学的に分析、考察し、表現する。 【学びに向かう力・人間性等】 身のまわりのさまざまな物体にはたらく力について主体的に考え、その性質や共通点などについて考える。 期末考査	1 編 2 章 さまざまな力とそれはたらき ①力とつり合い ②運動の法則 ③さまざまな運動とはたらき 実験 教材 教科書、プリント 期末考査	1 編 2 章 さまざまな力とそれはたらき 【知識及び技能】 力の 3 要素と、2 つの力が物体にはたらくときの力のつり合いの条件について理解している。 力の合成と分解について、作図を通して理解している。 慣性の法則や運動方程式、作用・反作用の法則、物体にはたらく重力について理解している。 静止摩擦力と動摩擦力の共通点や相違点を理解している。 水中の物体にはたらく水圧や浮力と、アルキメデスの原理について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 物体にはたらく力、物体に生じる加速度、物体の質量についての関係を定量的に調べ実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。 【学びに向かう力・人間性等】 身のまわりのさまざまな物体にはたらく力について主体的に考え、その性質や共通点などについて考えようとしている。 期末考査	○	○	○	12
	期末考査			○	○	○	14

2 学 期	1 編 3 章 力学的エネルギー 2 編 1 章 熱 【知識及び技能】 仕事とエネルギーの関係、仕事の原理、仕事率について理解する。 運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し、定量的に表す。 力学的エネルギーが保存される場合、保存されない場合について理解する。また、熱などまで含めれば全てのエネルギーが保存されている（エネルギー保存の法則が成り立つ）ことを理解する。 熱と温度について理解する。 熱がエネルギーであることや物質の三態と潜熱について理解する。 熱量の保存や熱力学第 1 法則を理解する。 熱効率と可逆変化、不可逆変化について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 仕事とエネルギーの関係がどうなっているかを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現する。 物質の種類によって温度変化に必要な熱量が異なるか調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現する。 【学びに向かう力・人間性等】 仕事や仕事率、エネルギーについて考察し、表現しようとする。 物質の種類によって温度変化に必要な熱量が異なるか調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察する。 中間調査 【知識及び技能】 波は振動であることを理解し、波源や媒質について理解している。また、直線状に伝わる波の波形について理解する。 $y-x$ グラフと $y-t$ グラフとの関係を理解している。また、波の速さ、周期、振動数、波長の関係を理解する。 波の独立性と波の重ね合わせの原理、定在波について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 中学校の既習事項から、P 波や S 波について考え、自分なりにそれらの相違点について考え、表現する。 波が重なって定在波ができるようすを、作図を通して表現する。 固有振動の特徴を調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現する。 気柱内に定在波が生じると予測し、それを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現する。 【学びに向かう力・人間性等】 人がつくるウェーブや、リボンを付けたつる巻ばねがつくる波について、異なる点や気付いたことを考えたり表現しようとする。 固有振動の特徴を調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考える。 気柱内に定在波が生じると予測し、それを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考える。 期末考查	1 編 3 章 力学的エネルギー ①エネルギーと仕事 ②運動エネルギーと位置エネルギー ③力学的エネルギーの保存 ④力学的エネルギーが保存されない場合 実験 2 編 1 章 熱 ①温度と熱 実験 ②熱の移動と保存 ③熱と仕事 ④熱効率と不可逆変化 実験 教材 教科書、プリント 中間調査 2 編 2 章 波 ①波を表す ②波の重ね合わせ 実験 ③音の性質 ④弦の固有振動 ⑤気柱の固有振動 実験 教材 教科書、ワーク、プリント 期末考查	1 編 3 章 力学的エネルギー 2 編 1 章 熱 【知識及び技能】 仕事とエネルギーの関係、仕事の原理、仕事率について理解している。 運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し、定量的に表すことができる。 力学的エネルギーが保存される場合、保存されない場合について理解している。また、熱などまで含めれば全てのエネルギーが保存されている（エネルギー保存の法則が成り立つ）ことを理解している。 熱と温度について理解している。 熱がエネルギーであることや物質の三態と潜熱について理解している。 熱量の保存や熱力学第 1 法則を理解している。 熱効率と可逆変化、不可逆変化について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 仕事とエネルギーの関係がどうなっているかを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。 物質の種類によって温度変化に必要な熱量が異なるか調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。 【学びに向かう力・人間性等】 仕事や仕事率、エネルギーについて考察し、表現しようとしている。 物質の種類によって温度変化に必要な熱量が異なるか調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察している。 中間調査 【知識及び技能】 波は振動であることを理解し、波源や媒質について理解している。また、直線状に伝わる波の波形について理解している。 $y-x$ グラフと $y-t$ グラフとの関係を理解している。また、波の速さ、周期、振動数、波長の関係を理解している。 波の独立性と波の重ね合わせの原理、定在波について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 中学校の既習事項から、P 波や S 波について考え、自分なりにそれらの相違点について考え、表現している。 波が重なって定在波ができるようすを、作図を通して表現している。 固有振動の特徴を調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。 気柱内に定在波が生じると予測し、それを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。 【学びに向かう力・人間性等】 人がつくるウェーブや、リボンを付けたつる巻ばねがつくる波について、異なる点や気付いたことを考えたり表現しようとしたりしている。 固有振動の特徴を調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。 気柱内に定在波が生じると予測し、それを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。 期末考查	○	○	○	8
				○	○	○	8

[illegible]

野津田 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教 科： 理科 科 目： 化学基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 5 組

使用教科書：新編 化学基礎（東京書籍）

教科 理科 の目標： 自然の事物・現象に関わり、理科の味方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに必要な技能を身につける

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎 の目標： 科学的に探究するために必要な知識・技能を日常生活との関わりを意識しながら身に付けさせる。観察、実験を通して、身につけた知識・技能を活用して科学的に探究する力を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験の基本的な技能を身につける。	観察、実験などを行い、化学的な事象について科学的に探究する力を身につける。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 【知識及び技能】化学の特徴を理解し、それらの観察、実験などに関する技能を身につけさせる。 【思考力・判断力・表現力】観察・実験などを通して、物質の性質について科学的に考察し表現する力を身につけさせる。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりの化学に関する現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か ・身のまわりの物や化学的な事象・物質の性質とその利用 実験：チョークと塩酸の反応、エタノールと水の混合 教材：教科書、ワーク、プリント	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 【知識及び技能】身のまわりには物質が多くあり、化学反応が様々な場面で応用されることを理解している。 【思考力・判断力・表現力】物質の性質をもとに、実験結果を予測したり考察したりすることができる。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりの物質や化学的な事象についての話し合いを通じて、化学とは何か考えようとしている。			○	○	2
	2章 物質の成分と構成元素 【知識及び技能】化学と物質について、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について理解し、物質を分離・精製する技能を身につけさせる。 【思考力・判断力・表現力】化学と物質について、物質の性質から様々な混合物の分離・精製法を話し合っ て考えたり、表現したりする力を養う。 【学びに向かう力・人間性等】物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態に関する事物・現象を身近な事柄と関連付けながら科学的に探究しようとする態度を養う。	2章 物質の成分と構成元素 ①物質の成分 ②物質の構成元素 ③物質の三態 実験：混合物の分離（ワインの蒸留、醤油から塩を取り出す） 教材：教科書、ワーク、プリント	2章 物質の成分と構成元素 【知識及び技能】化学と物質についての実験などを通して、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について理解しているとともに、ガスバーナーの使用やろ過など基本的な実験操作を行うことができる。 【思考力・判断力・表現力】化学と物質について、物質の性質から様々な混合物の分離・精製法を話し合っ て考えたり、表現したりできる。 【学びに向かう力・人間性等】化学の特徴、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について、身近な現象と関連付けながら科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8	
	中間考査							
	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 【知識及び技能】原子の構造、電子配置と周期表について理解させる。 【思考力・判断力・表現力】物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表の構成との関連を考 えて表現する力を養う。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりのものの構成元素を調べたり、現象を微視的な視点で探究しようとする態度を養う。	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②電子配置と周期表	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 【知識及び技能】原子の構造、電子配置と周期表について理解している。 【思考力・判断力・表現力】物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表の構成との関連を考えて表現できる。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりのものの構成元素を調べたり、現象を微視的な視点で探究しようとしている。	○	○		1	
	2章 化学結合 【知識及び技能】イオンや化学結合について電子配置の観点から理解し、物質の性質との関係を整理できるようにする。 【思考力・判断力・表現力】イオンや化学結合について、実験・観察などを通してさまざまな物質を分類したり、特徴や考えたことを表現したりする力を身につけさせる。 【学びに向かう力・人間性等】イオンや化学結合に関する実験・観察を通して様々な事物・現象に関り、身のまわりの事物・現象に結び付けて探究しようとする態度を養う。	2章 化学結合 ①イオンとイオン結合 ②分子と共有結合 ③金属と金属結合 ④化学結合と物質の分類 実験：イオンと電導度、物質の分類（化学結合） 使用教材：教科書、ワーク、プリント	2章 化学結合 【知識及び技能】イオンや化学結合について電子配置の観点から理解し、物質の性質との関係を整理できている。 【思考力・判断力・表現力】イオンや化学結合について、実験・観察などを通してさまざまな物質を分類したり、特徴や考えたことを表現したりすることができる。 【学びに向かう力・人間性等】イオンや化学結合に関する実験・観察を通して様々な事物・現象に関り、身のまわりの事物・現象に結び付けて探究しようとしている。	○	○	○	5	
	2章 化学結合 【知識及び技能】イオンや化学結合について電子配置の観点から理解し、物質の性質との関係を整理できるようにする。 【思考力・判断力・表現力】イオンや化学結合について、実験・観察などを通してさまざまな物質を分類したり、特徴や考えたことを表現したりする力を身につけさせる。 【学びに向かう力・人間性等】イオンや化学結合に関する実験・観察を通して様々な事物・現象に関り、身のまわりの事物・現象に結び付けて探究しようとする態度を養う。	2章 化学結合 ①イオンとイオン結合 ②分子と共有結合 ③金属と金属結合 ④化学結合と物質の分類 実験：イオンと電導度、物質の分類（化学結合） 使用教材：教科書、ワーク、プリント	2章 化学結合 【知識及び技能】イオンや化学結合について電子配置の観点から理解し、物質の性質との関係を整理できている。 【思考力・判断力・表現力】イオンや化学結合について、実験・観察などを通してさまざまな物質を分類したり、特徴や考えたことを表現したりすることができる。 【学びに向かう力・人間性等】イオンや化学結合に関する実験・観察を通して様々な事物・現象に関り、身のまわりの事物・現象に結び付けて探究しようとしている。	○	○	○	14	
	期末考査							

				○	○		1
2 学 期	3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 【知識及び技能】物質量の概念や化学反応の書き方を理解させる。また、定量実験に関する基礎的な技能を習得させる。 【思考力・判断力・表現力】化学反応式や物質量の考え方を基に、生成物の量を予測したり、実験結果から考えられることを表現する力を身につけさせる。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりの事象を化学反応の観点から考え、主体的に事物・現象を科学的に探究する態度を養う。 中間考査 2章 酸と塩基 【知識及び技能】酸・塩基と中和について理解させ、溶液を調製したり中和滴定を行ったりするための実験技能を身につけさせる。 【思考力・判断力・表現力】実験を通して酸・塩基の性質について考えたり、定量的な観点で酸・塩基、中和滴定に関する実験の結果を予測したりすることができる力を養う。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりの酸・塩基や中和反応について主体的に考えたり、科学的に探究したりしようとする態度を養う。	3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 ①原子量・分子量・式量 ②物質量 ③溶液の濃度 ④化学反応の表し方 ⑤化学反応式の表す量的関係 実験：炭酸水素ナトリウムの熱分解、炭酸水素ナトリウムとシュウ酸の反応 教材：教科書、ワーク、プリント 2章 酸と塩基 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度とpH ③中和反応と塩の生成 ④中和滴定 実験：中和滴定（塩酸と水酸化ナトリウムの中和反応） 教材：教科書、ワーク、プリント	3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 【知識及び技能】物質量の概念や化学反応の書き方を理解している。また、定量実験に関する基礎的な技能を習得している。 【思考力・判断力・表現力】化学反応式や物質量の考え方を基に、生成物の量を予測したり、実験結果から考えられることを表現する力を身につける。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりの事象を化学反応の観点から考え、主体的に事物・現象を科学的に探究しようとしている。 2章 酸と塩基 【知識及び技能】酸・塩基と中和について理解し、溶液を調製したり中和滴定を行ったりするための実験技能を習得している。 【思考力・判断力・表現力】実験を通して酸・塩基の性質について考えたり、定量的な観点で酸・塩基、中和滴定に関する実験の結果を予測したりすることができる。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりの酸・塩基や中和反応について主体的に考えたり、科学的に探究したりしようとしている。	○	○	○	10
				○	○		1
				○	○	○	10
3 学 期	3章 酸化還元反応 【知識及び技能】酸化と還元について理解させ、酸化還元滴定に関する基本的な実験技能を身につけさせる。 【思考力・判断力・表現力】実験を通して酸化還元反応について考えたり、定量的な観点で酸化還元滴定に関する実験の結果を予測したりすることができる力を養う。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりの酸化還元反応について主体的に考えたり、科学的に探究したりしようとする態度を養う。 学年末考査 終章 化学が拓く世界 【知識及び技能】これまでに学習した化学に関する内容を整理させる。 【思考力・判断力・表現力】これまでの学習内容や他教科の内容を相互に関連させて、身のまわりの事物・現象について考えたり表現したりする力を身につけさせる。 【学びに向かう力・人間性等】これまでの学習を振り返りながら、化学が拓く世界を主体的に考えたり調べたりする力を養う。	3章 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤 ③金属の酸化還元反応 ④酸化還元反応の応用 実験：酸化還元滴定（過マンガン酸カリウムとシュウ酸の反応） 教材：教科書、ワーク、プリント 終章 化学が拓く世界 化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを確認する（調べ学習、プレゼン）	3章 酸化還元反応 【知識及び技能】酸化と還元について理解し、酸化還元滴定に関する基本的な実験技能を身につけている。 【思考力・判断力・表現力】実験を通して酸化還元反応について考えたり、定量的な観点で酸化還元滴定に関する実験の結果を予測したりすることができる。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりの酸化還元反応について主体的に考えたり、科学的に探究したりしようとしている。 終章 化学が拓く世界 【知識及び技能】これまでに学習した化学に関する内容を整理することができる。 【思考力・判断力・表現力】これまでの学習内容や他教科の内容を相互に関連させて、身のまわりの事物・現象について考えたり表現したりすることができる。 【学びに向かう力・人間性等】これまでの学習を振り返りながら、化学が拓く世界を主体的に考えたり調べたりしようとしている。	○	○	○	12
				○	○		1
				○	○	○	5
							合計
							70

野津田 高等学校 令和 7 年度（2 学年用） 教科 保健体育 科目 体育
 教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 3 単位
 対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 3 組
 使用教科書：
 教科 保健体育 の目標：

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	2. 安全な社会生活 【知識及び技能】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。 【思考力、判断力、表現力等】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。 【学びに向かう力、人間性等】 現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとする。 定期考査	指導項目・内容 (ア) 安全な社会づくり (イ) 応急手当 使用教材 ・教科書、各種資料 ○ICT機器の活用、1人1台端末の活用	【知識及び技能】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。 【思考力、判断力、表現力等】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。 【学びに向かう力、人間性】 現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとする。	○	○	○	12
2 学 期	3. 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 生涯を通じる健康について理解を深めること。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとする。 定期考査	指導項目・内容 (ア) 生涯の各段階における健康 (イ) 労働と健康 使用教材 ・教科書、各種資料 ○ICT機器の活用、1人1台端末の活用	【知識及び技能】 生涯を通じる健康について理解を深めること。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 【学びに向かう力、人間性】 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとする。	○	○	○	12
3 学 期	4. 健康を支える環境づくり 【知識及び技能】 健康を支える環境づくりについて理解を深めること。 【思考力、判断力、表現力等】 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 健康を支える環境づくりに関する学習に主体的に取り組もうとする。 定期考査	指導項目・内容 (ア) 環境と健康 (イ) 食品と健康 (ウ) 保健医療制度及び地域の保健・医療機関 (エ) 健康に関する環境づくりと社会参加 ・教科書、各種資料 ○ICT機器の活用、1人1台端末の活用	【知識及び技能】 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 【思考力、判断力、表現力等】 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 【学びに向かう力、人間性】 健康を支える環境づくりに関する学習に主体的に取り組もうとする。	○	○	○	11 合計 35

年間授業計画

野津田 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

保健体育

科目 スポーツ概論

教 科： 保健体育

科 目： スポーツ概論

単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 5 組～ 組

使用教科書：

教科 保健体育

の目標：

【知 識 及 び 技 能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。

科目 スポーツ概論

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。	スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技能】 自己に適した生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計していくためには、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツへの関わり方の特徴や条件があること、それらの特徴や条件に応じて無理なくスポーツを継続するための計画を立てることがあること、生涯スポーツの実践を支える環境を確保するためのスポーツの推進に向けた施策や条件及び自身の意思決定などがあることについて理解する。	【指導項目】 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方 【使用教材】 ・教科書、各種資料 ICT機器の活用、1人一台端末の活用	【知識及び技能】 自己に適した生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計していくためには、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツへの関わり方の特徴や条件があること、それらの特徴や条件に応じて無理なくスポーツを継続するための計画を立てることがあること、生涯スポーツの実践を支える環境を確保するためのスポーツの推進に向けた施策や条件及び自身の意思決定などがあることについて理解している。	○	○	○	9
	【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を養う。						
	【学びに向かう力、人間性等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組む態度を養う。	【定期考査】	【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を身に付けている。	○	○	○	1
2 学 期	【知識及び技能】 スポーツの多様な推進及び発展に寄与するためには、対象者に応じたスポーツの指導法や参加者の経験や体力に応じた健康・安全の確保の仕方を理解する。	【指導項目】 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方 ・スポーツの多様な指導法と健康・安全 【使用教材】 ・教科書、各種資料 ICT機器の活用、1人一台端末の活用	【知識及び技能】 スポーツの多様な推進及び発展に寄与するためには、対象者に応じたスポーツの指導法や参加者の経験や体力に応じた健康・安全の確保の仕方を理解している。	○	○	○	13
	【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を養う。						
	【学びに向かう力、人間性等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組む態度を養う。	【定期考査】	【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を身に付けている。	○	○	○	1
3 学 期	【知識及び技能】 スポーツの多様な推進及び発展に寄与するためには、対象者に応じたスポーツの指導法や参加者の経験や体力に応じた健康・安全の確保の仕方を理解する。	【指導項目】 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方 ・スポーツの多様な指導法と健康・安全 【使用教材】 ・教科書、各種資料 ICT機器の活用、1人一台端末の活用	【知識及び技能】 スポーツの多様な推進及び発展に寄与するためには、対象者に応じたスポーツの指導法や参加者の経験や体力に応じた健康・安全の確保の仕方を理解している。	○	○	○	10
	【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を養う。						
	【学びに向かう力、人間性等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組む態度を養う。	【定期考査】	【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を身に付けている。	○	○	○	1
			【学びに向かう力、人間性等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組む態度を身に付けている。	○	○	○	合計 35

野津田 高等学校 令和7年度（2学年用）教科 保健体育 科目 スポーツⅡ
 教科：保健体育 科目：スポーツⅡ 単位数：2 単位
 対象学年組：第 2 学年 5 組～ 組
 使用教科書：

教科 保健体育 【知 識 及 ひ 技 能】 【思 考 力】	の目標：
	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。

科目 スポーツⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正・協力・責任・参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

[illegible]

野津田 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 スポーツⅢ
 教科： 保健体育 科目： スポーツⅢ 単位数： 1 単位
 対象学年組： 第 2 学年 5 組～ 組
 使用教科書：

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	武道及び諸外国の対人的競技等における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通じてスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	【知識及び技能】 武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	【柔道】 基礎技術の習得 ・受け身 ・後ろ受け身 ・横受け身 ・前受け身 ・前回り受け身 ・固め技 ・袈裟固め ・横四方固め ・縦四方固め ・立ち技 ・足技 ・腰技 ・手技 応用練習 ・固め技約束練習 ・寝技乱取り ・かかり練習 ・乱取り 試合形式 ・試合の進め方 ・礼儀、ルール ・審判 ・試合	【知識及び技能】 武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けている。	○	○	○	10
2 学 期	【思考力、判断力、表現力】 武道及び諸外国の対人的競技等における自己や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。	【剣道】 基礎技術の習得 ・足さばき ・構え ・面打ち ・小手打ち ・胴打ち ・切り返し 応用練習 ・二段の技 ・払い技 ・引き技 ・出ばな技 試合形式 ・試合の進め方 ・礼儀、ルール ・審判 ・試合	【思考力、判断力、表現力】 武道及び諸外国の対人的競技等における自己や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を身に付けている。	○	○	○	14
3 学 期				○	○	○	11
							合計
							35

[illegible]

年間授業計画

野津田 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 スポーツⅤ

教 科： 保健体育 科 目： スポーツⅤ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 5 組～ 組

使用教科書：

- 教科 保健体育 の目標：
- 【知 識 及 び 技 能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。

科目	スポーツⅤ	の目標：
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
	自然との関わりの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	自然との関わりの深い野外の運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
		【学びに向かう力、人間性等】
		自然との関わりの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期							
2 学 期	【知識及び技能】 自然との関わりの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自然との関わりの深い野外の運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 自然との関わりの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。	指導項目・内容 競技型の野外運動への多様な関わり方 ・キャンプ ※本科目は特期集中講座である	【知識及び技能】 自然との関わりの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自然との関わりの深い野外の運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 自然との関わりの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。	○	○	○	実習 3日間 事前指導 30時間 事後指導 16時間 合計 70
3 学 期							合計 70

年間授業計画

野津田 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 スポーツⅦ

教 科： 保健体育 科 目： スポーツⅦ 単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 5 組～ 組

使用教科書：

教科 保健体育 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。

科目 スポーツⅦ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	集団行動（隊列の変形、行進） 各種ストレッチング（1学年の体育理論で学んだ筋を意識させる）	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	○	○	○	5
	【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	野外レクリエーション（体を使った表現の工夫）自然環境の中での各種運動	【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	○	○	○	6
2 学 期	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	野外レクリエーション（体を使った表現の工夫）自然環境の中での各種運動	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	○	○	○	4
	【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	集団行動	【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	○	○	○	9
3 学 期	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	集団行動 縄跳び 持久走	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	○	○	○	11
	【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。		【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。				合計 35

[illegible]

年間授業計画

野津田 高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 音楽Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 5 組

使用教科書： MOUSAⅡ （教育芸術社）

教科 芸術 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当
1 学 期	○歌唱 【知識及び技能】 伸びやかな発声で歌唱する 【思考力、判断力、表現力等】 曲調や歌詞を理解し歌唱表現ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 楽曲に興味を持ち積極的に学ぼうとする姿勢を養う。	○歌唱 ・Chessboard	【知識及び技能】 実技テストにより伸びやかな発声で歌唱できているか。 【思考力、判断力、表現力等】 実技テストにより曲調や歌詞を理解し歌唱表現ができているか 【学びに向かう力、人間性等】 楽曲に興味を持ち積極的に学ぼうとする姿勢が見られるか。	○	○	○	4
	○楽典、ソルフエージュ 【知識及び技能】 音符、休符についての基礎知識を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 音符、休符を読み演奏できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽の基礎知識を積極的に学ぼうとする姿勢を養う。	○楽典、ソルフエージュ ・八分音符までのリズムを手拍子で演奏する	【知識及び技能】 実技テストにより音符、休符についての基礎知識を理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 実技テストにより音符、休符を読み演奏できているか。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽の基礎知識を積極的に学ぼうとする姿勢が見られるか。	○	○	○	3
	○キーボード 【知識及び技能】 鍵盤の位置、楽譜を理解し簡単な楽曲を演奏できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 曲調に合わせて工夫しながら表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 キーボードに興味を持ち技術を向上させようという姿勢を養う。	○キーボード ・よろこびのうた ・こびとがひとり森の中で ・特賞歌 ・カッコー ・5 本指のエチュード ・いとまきのうた	【知識及び技能】 実技テストにより基本的なキーボードの演奏技術がついているか 【思考力、判断力、表現力等】 実技テストにより演奏の工夫があるか 【学びに向かう力、人間性等】 キーボードに興味を持ち技術を向上させようという姿勢が見られるか。	○	○	○	10
	○鑑賞 【知識及び技能】 音楽を形作っている諸要素について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 音楽を形作っている諸要素から楽曲について表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 楽曲に興味を持ち積極的に鑑賞しようとする姿勢を養う。	○鑑賞 ・音楽を形作っている諸要素について学ぶ	【知識及び技能】 ワークシートを通じ音楽を形作っている諸要素について理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 ワークシートを通じ音楽を形作っている諸要素から楽曲について表現しているか。 【学びに向かう力、人間性等】 楽曲に興味を持ち積極的に鑑賞しようとする姿勢が見られるか。	○	○	○	3
	○創作 【知識及び技能】 コード進行に適したメロディを創作し、演奏する。 【思考力、判断力、表現力等】 リズムや音の選び方によりメロディ構成に工夫をする 【学びに向かう力、人間性等】 コード進行とメロディの関わりに関心を持ち主体的に創作を行う。	○創作 ・カノンのコード進行にのせてメロディを創作し、キーボードで演奏する	【知識及び技能】 コード進行に適したメロディを創作し、演奏できているか。 【思考力、判断力、表現力等】 リズムや音の選び方によりメロディ構成に工夫をしているか。 【学びに向かう力、人間性等】 コード進行とメロディの関わりに関心を持ち主体的に創作活動を行えているか。	○	○	○	7

[illegible]

野津田 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 芸術 科目 美術

教 科： 芸術 科 目： 美術 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 3 組 、 5 組

使用教科書：美術Ⅰ（光村出版）

教科 芸術 の目標： 美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

- 【知識及び技能】 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

科目 美術 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
発想や構想をしたことを基に、自分の表現を具体化するために、主題に合った効果的な表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表せるようにする。	感じ取ったことや考えたことなどから生成した主題を基に、それぞれの表現形式の良さや効果などについて考えることができる。また、主題に合った表現形式を選択し、独自性や自分らしさを発揮しながら創造的な表現の構想を練れるようにする。	主体的に美術作品や文化遺産などのよさや美しさ、表現の独自性などを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫、心豊かな生き方の創造に関わる美術の働きや自己の価値観を高めて、美術作品や美術の働き、美術文化についての見方や考え方を深める態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
【知識及び技能】 色彩が感情にもたらす効果を理解する 【思考・判断・表現】 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める 【学びに向かう力・人間性】 主体的に色彩や絵の具の特性について学び、表現の創造的な諸活動に取り組む態度を養う	■絵画：色彩について ・色彩について学習し、アクリル絵の具で平塗りの練習、混色の練習を行う あわせて配色について学び、意図に応じた配色方法について学ぶ	【知識及び技能】 色彩が感情にもたらす効果を理解している 【思考・判断・表現】 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めている 【学びに向かう力・人間性】 主体的に色彩や絵の具の特性について学び、感表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている	○	○	○	6
【知識及び技能】 形や色などがもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、文化祭ポスターを全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解する 【思考・判断・表現】 伝えたいイメージをもとに、デザインの機能や効果、統一感をもたせた作品形態や表現方法、配色や構成などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る 【学びに向かう力・人間性】 主体的に伝えたいイメージや伝える相手などについて考え、効果的にイメージを伝える表現の創造的な諸活動に取り組む態度を養う	■デザイン：文化祭ポスター制作 ・スローガンをもとに、ポスターの図案を考え、文化祭（野津田祭文化部門）のポスターデザインの構想を練る ・ケント紙に下描きし、アクリル絵の具を使用して着色する ・自分の作品のプレゼンテーションと他者作品の鑑賞	形や色などがもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、文化祭ポスターを全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している 【思考・判断・表現】 伝えたいイメージをもとに、デザインの機能や効果、統一感をもたせた作品形態や表現方法、配色や構成などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている 【学びに向かう力・人間性】 主体的に伝えたいイメージや伝える相手などについて考え、効果的にイメージを伝えるポスターデザインを工夫する表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている	○	○	○	14
【知識及び技能】 亀倉のデザインを全体のイメージや作風、様式などで捉える 【思考・判断・表現】 亀倉のデザインの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、見方や感じ方を深める 【学びに向かう力・人間性】 主体的に亀倉のデザインの目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、鑑賞の創造的な諸活動に取り組む態度を養う	■デザイン鑑賞：亀倉雄策 ・亀倉雄策の生涯と作品について、教科書やスライドを見て学習する ・個人端末で亀倉雄策について調べ、気になった作品等についてまとめ、ショートプレゼンテーションを行う	【知識及び技能】 亀倉のデザインを全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している 【思考・判断・表現】 亀倉のデザインの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、見方や感じ方を深めている 【学びに向かう力・人間性】 主体的に亀倉のデザインの目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている	○	○	○	6

野津田 高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 書道Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 3 組 、 5 組

使用教科書： 書道Ⅱ （東京書籍）

教科 芸術 の目標：
【知 識 及 び 技 能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようになる。
【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現や形式、多様性などについて幅広く知り、書の技法を身に付け、書写能力の向上を図る。同時に書の歴史を知り、自己表現のための基礎的な考え方や技能を身に付ける。	書に対する考えを深め、自己が対象物に対して感じる印象を言語化し、書的美を主体的に味わう。また自己の創作意図に沿って構想と表現を工夫し制作に取り組む。	臨書や創作などの書の幅広い活動に取り組みながら、筆記具で文字を書くことを楽しみ味わい、生涯を通じて書を愛好する心情を育む。書文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創り出す手助けを行う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元①《書道入門》 【知識及び技能】 正しく整えて書く書写から、自己表現、芸術科としての書道の位置付けを生徒に理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 国語科書写で培った基礎的な用筆、結構などを再確認し、生徒が一人一人目的に応じて書体（楷書、行書）の選択を行い、節節に表現できる力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 硬筆の学習を通じて、小中学校国語科書写において養った基礎を発展させる。芸術の書としてだけでなく、日常生活において必要な実用的な側面についても指導していく。	○書写と書道の違い →芸術科書道と国語科書写の目的の違い ○筆墨硯紙について →文房四宝の理解 筆墨硯紙の歴史 色々な現物を見て体験的に学ぶ 筆…大筆、小筆、毛の種類 墨…油煙、松煙、和墨、唐墨 硯…端溪など中国産、雄勝など国産のもの 紙…画仙紙、料紙など ○硬筆で楷書を書く →硬筆の持ち方、姿勢など 教材：筆墨硯紙、書道Ⅰ 硬筆ノート	【知識・技能】 書写と書道の視点の違いを理解できたか。 また、文房四宝についての基礎的な知識を理解できたか。実用的な基礎である、硬筆の書き方を修得できたか。 【思考・判断・表現】 ノートを取る際、正式な書類を書く際など、それぞれの場面に応じて適切な書体を選択し書写することができたか。また、国語科書写で学んだことを活かし丁寧に書写活動を行うことができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ノートやプリントなど積極的な取り組みを通じて、書写と書道の違いを自分なりに考え、芸術科書道における目標を認識できているか。	○	○	○	6
	単元②《楷書の学習》 【知識及び技能】 小中学校で行った国語科書写の復習を通じて、基本的な運筆を確認する。臨書の学習方法を知り、書風を意識しながら臨書する。また同時に古典が書かれた背景を理解し、当時の書文化についての知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」、「雁塔聖教序」と「建中告身帖」の比較・臨書を通じて書風の違いを認識し、書き分ける眼と技術を養う。九成宮の厳しい背勢の構え、孔子廟の温雅さ、雁塔の抑揚、建中の肉太さなどを体験的に味わい、その特徴を毛筆で追体験する。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な楷書の書風を知ること、身の回りの文字に興味を持ち、書風の違いが与える印象の違いを理解しようとする。また古典の書者について知ること、生きる時代は違えど当時の社会生活から書が	○基本点画 →縦画、横画、点、ハネ、ハライなど 《初唐三大家の臨書》 ○「九成宮醴泉銘」 ○「孔子廟堂碑」 ○「雁塔聖教序」 ○「建中告身帖」 ○「牛橛造像記」 ○拓本実習 教材：筆墨硯紙、書道Ⅰ 拓本道具	【知識・技能】 毛筆を持つ際の基本姿勢、筆の持ち方を習得できたか。 古典・書風とは何かを理解できたか。臨書学習における書の学び方を知り理解できたか。「九成宮」「孔子廟」「雁塔」「建中」「牛橛」の書風とその特徴を理解し、再現できたかどうか。 【思考・判断・表現】 「九成宮」「孔子廟」「雁塔」「建中」「牛橛」の古典について、それぞれの用筆や結構の特徴を自分なりに工夫し、臨書活動を通じて表現できたかどうか。当時においてなぜそのような古典が生まれたのか、古典が生まれた背景を理解しようと取り組んでいるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な楷書の書風を知ること、身の回りの文字に興味を持ち、書風の違いが与える印象の違いを理解しようとしているか。また授業中の板書など、必要事項をノートに記入しているかどうか。	○	○	○	24

2 学 期	単元③《行書の学習》 【知識及び技能】 書の歴史の中で「書聖」といわれる王羲之の書に触れながら、当時の時代背景と共に、なぜ書聖と呼ばれるのか、行書が生まれるに至った経緯と共に理解していく。また半切サイズに8文字書くことにより、大きい紙に書くバランスと集中力を養う。 【思考力、判断力、表現力等】 国語科書写で学んだ行書の基礎力を基に、点画の繋がりと省略、線の太細、柔らかさなど行書の特徴を理解し表現する。中国の王羲之とそれを学んだ空海の行書の書風の違いを観察しを通して理解し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 行書は普段使いにおいても常日頃より活用する書体であり、速書きに適している。生徒が時と場合に応じて主体的に書体を選択し学びを実生活に活かせるように指導する。また実用の面だけでなく、心の動きや情緒を表現しやすい行書の芸術表現を享受する。 単元④《刻字の学習》 【知識及び技能】 文字を表記する上で、書くことの他には刻る(削る)ことがあり、例えば殷周時代の甲骨文字のように、文字を書くことと刻すことは古代より相互に関りあっていた。刻字学習を通じて、書く以外の文字を記す方法を実際に彫刻刀でもって体験的に学習する。 【思考力、判断力、表現力等】 自分自身で選んだ好きな漢字をどのように工夫し、自分の意図に沿った表現を試みる。また、今まで学んだ楷書と行書の書体・書風を参考に生かして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 刻字はボードに刻しているもので、表具などしなくてもそのまま家に飾ることができる。書を愛好する心情を育てる上で、自分の好きな文字を、自分好みに書き、刻ることで、ものづくりとして、書を楽しむ、日常に取り入れていく。 単元⑤《細字の学習》 【知識・技能】 隋代の代表的な古典である美人董氏墓誌銘の臨書を通じて、小字楷書の基礎的な力を養う。 【思考力、判断力、表現力等】 唐代の楷書古典とは少し違う、少し扁平の結構をした隋の古典の書風の特徴を考察し捉えて適切に表現する。前学期で学習した楷書の基礎を踏まえて基本となる点画を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 細字は実生活で使う文字の大きさに近いので、この授業を通して学びえた書写能力を日々の硬筆に生かしていく。	○王羲之「蘭亭序」 半切2分の1に書く ○空海「風信帖」 教材：筆墨硯紙 書道Ⅰ ○刻字について ○刻字の歴史 ○刻字制作 教材：筆墨硯紙 書道Ⅰ アクリル絵具 ○美人董氏墓誌銘 教材 筆墨硯紙 小筆	【知識・技能】 行書という書体を完成させた王羲之の蘭亭序の書風の特徴を理解し、再現できているか。さらにそこから発展した空海の風信帖は八面出鋒で筆をねじり、つき、かえる等、様々な筆の機能を引き出そうと工夫し、多面的に筆を用いながら書けているか。 【思考・判断・表現】 普段使わない大きい紙に配置を考えて書けたか。また最後まで一貫した作品に仕上がったか。王羲之と空海、それぞれ異なる書風の特徴を自分なりに観察し、表現できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 行書は普段使いにおいても常日頃より活用する書体であり、速書きに適しているため、生徒が時と場合に応じて主体的に書体を選択し学んだ技法を実生活に活かしているかどうか。 【知識・技能】 刻字の歴史と表現を知り、文字を刻ることと書くことの関係性を理解しているか。今まで学んできた古典の様々な書風や書体を活かしているか。 【思考・判断・表現】 筆で書いた下書きに合わせ、実際に刻る過程の中でかすれや墨溜まり、粗細の変化など工夫して取り組んでいるか。また自分の制作意図にそって色や刻り方に工夫しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 臨書は呼吸に例えると息を吸う作業であり、創作は吐く作業である。学び得たものをどのように使い、自分のものとして発散していくか、楽しみながら積極的に取り組んでいるかどうか。 【知識・技能】 隋代の書の歴史を理解し、その代表的な古典である美人董氏墓誌銘の書風を把握できたか。 【思考・判断・表現】 隋代墓誌銘の特徴を捉え、いつもとは違う文字の大きさに適応し表現できたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 御祝いの封筒や芳名など、筆で細字を書く機会は日常に多く存在する。小楷の技法を積極的に学び取り、日々のノートなどの字に反映しているかどうか。また点画の部分練習など自ら工夫して練習しているかどうか。	○	○	○	8
				○	○	○	10
				○	○	○	6

3 学 期	単元⑥《仮名の学習》 【知識及び技能】 日本固有の仮名文字の成り立ちを理解する。また、「いろは歌」や変体仮名の学習を通じて、仮名の書き方を習得する。蓬萊切や高野切の臨書学習を通して、平安の和歌文化を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 細線・曲線を基調とした仮名文字を書の特徴を理解し表現する。また和歌と仮名文字の関係について考察し、書とかかれた言葉との関係性の理解に努める。連綿や変体仮名を用いた古筆の書をよく観察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 書は書のみならず、文学や美術とも深いかわりがあることから、国語科古典における和歌文学との教科横断的な授業を行い、芸術的側面のみならず当時の平安時代の文化の一翼であったことを紹介し、書と社会とのかかわりの認知を促す。	○仮名の成り立ち ○いろは歌 ○変体仮名 ○蓬萊切 ○高野切第三種 教材：筆墨硯紙 書道 I 料紙	【知識・技能】 日本固有の仮名文字の成り立ちを理解しているか。また、「いろは歌」や変体仮名、古筆の学習を通じて、仮名の書き方を習得しているか。 【思考・判断・表現】 細線や曲線、連綿や変体仮名を用いた仮名文字の書の特徴を理解し表現しているか。また和歌と仮名文字の関係について考察し、書とかかれた言葉との関係性の理解に努めているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 仮名の連綿などの部分練習を工夫して取り組み、細い線が主体の仮名文字を表現しようと工夫しているかどうか。	○	○	○	18
							合計
							72

野津田 高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 英語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教 科： 英語 科 目： 英語コミュニケーションⅡ 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 5 組

使用教科書：All Aboard！English Communication Ⅱ

教科 英語

の目標：

【知識及び技能】外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて発展的に活用できる技能を身に付け、積極的に発信する力を養う。

【思考力、判断力、表現力等】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して発展的に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、発展的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、4 技能によるコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて発展的に活用する技能を身に付け、積極的に発信する力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて外国語で情報や考えの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して発展的に表現したり伝え合うことができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、発展的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識・技能】 関係代名詞、比較表現の特徴やきまりなどを理解する。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。	○指導事項 ・ Pre-Lesson My Plans for This Year ・ Lesson1 A Colorful Is land 関係代名詞（what） ・ Lesson2 With the Beatles 比較表現 ○教材 教科書、問題集、プリント、ノート、スマスク端末 ○指導や評価の方法 小テスト、パフォーマンステスト、問題集等の提出物	【知識・技能】 関係代名詞、比較表現の特徴やきまりなどを理解している。コミュニケーションを行う目的等に応じ、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	【知識・技能】 it の用法や間接疑問文の特徴やきまりなどを理解する。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。	○指導事項 ・ Lesson 3 Wild Men it の用法 ・ Lesson 4 Little Hero 間接疑問文 ○教材 教科書、問題集、プリント、ノート、スマスク端末 ○指導や評価の方法 小テスト、パフォーマンステスト、問題集等の提出物	【知識・技能】 it の用法や間接疑問文の特徴やきまりなどを理解している。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。	○	○	○	21
	定期考査			○	○		1

2 学 期	【知識・技能】 to不定詞を含む表現や動詞の目的語になるif節の特徴やきまりなどを理解する。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりする。 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとする。	○指導事項 - Lesson 5 Special Makeup in Kabuki to不定詞を含む表現 - Lesson6 Seeds for Future Generations 動詞の目的語になるif節 ○教材 教科書、ワークブック、プリント、ノート、スマスク端末 ○指導や評価の方法 小テスト、パフォーマンステスト、ワークブック等の提出物	【知識・技能】 to不定詞を含む表現や動詞の目的語になるif節の特徴やきまりなどを理解している。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。	○	○	○	19
	定期考査			○	○		1
	【知識・技能】 関係副詞や知覚動詞の特徴やきまりなどを理解する。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりする。 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとする。	○指導事項 - Lesson 7 Over the Wall 関係副詞 - Lesson8 Inspiration from Nature 知覚動詞 ○教材 教科書、ワークブック、プリント、ノート、スマスク端末 ○指導や評価の方法 小テスト、ワークブック等の提出物	【知識・技能】 関係副詞や知覚動詞の特徴やきまりなどを理解している。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
3 学 期	【知識・技能】 使役動詞や分詞構文の特徴やきまりなどを理解する。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりする。 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとする。	○指導事項 - Lesson9 The Bitter Truth behind Chocolate 使役動詞 - Lesson10 Fighting Angel 分詞構文 ○教材 教科書、ワークブック、プリント、ノート、スマスク端末 ○指導や評価の方法 小テスト、パフォーマンステスト、ワークブック等の提出物	【知識・技能】 使役動詞や分詞構文の特徴やきまりなどを理解している。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
							合計
							105

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 外国語（英語） 科目 論理表現Ⅱ

教 科： 外国語（英語） 科 目： 論理表現Ⅱ 2 単位
対象学年組：第 2 学年 1 組～ 3 組
教科担当者：（1組：高良・成田） （2組：新城・高良） （3組：高良・成田）
使用教科書：（ Harmony English Logic and Expression Ⅱ ）
教科 外国語（英語） の目標：

- 【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて発展的に活用できる技能を身に着けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して発展的に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的、発展的に外国語を用いてコミュニケーションを取ろうとする態度を養う。

科目 論理表現Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の基本的な語句や文を理解し、日常的な話題などについて意見を述べたり、賛成反対の意見を根拠を示しながら伝え合うことができる。	自分の意見を相手によりよく理解してもらえらるように、事例や根拠を示しながら説明することができる。また社会的な話題について背景知識を活用しながら自分の考えを述べたり相手の考えを引き出したりすることができる。	自分の意見を相手によりよく理解してもらえらるように様々な表現を用いるなどの工夫をして伝え合おうとしている。また、相手の意見に応じて自分の考えを示しながらよりよいやり取りになるよう努めている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	Lesson 1 最近の出来事について説明する 【知識及び技能】 現在・過去・未来を使った表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 現在・過去・未来の表し方を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 1 現在・過去・未来の表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 現在・過去・未来を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	5
	Lesson 2 有名人の経歴について説明する 【知識及び技能】 完了形を使った表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 完了形を使った表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 2 現在完了形・過去完了形の表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 完了形を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	Lesson 3 できること・すべきことについて話す Lesson 4 日本の文化・ものについて話す 【知識及び技能】 助動詞・受動態について学んで理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 助動詞・受動態を使った表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 3 助動詞の表現 Lesson 4 受動態の表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 助動詞・受動態を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	6
	Lesson 5 防災について考える 【知識及び技能】 Lesson 5 不定詞について学んで理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 不定詞を使った表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 5 不定詞の表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 不定詞を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1

2 学 期	Lesson 6 都市構造について議論する 【知識及び技能】 Lesson 6 不定詞について学んで理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 不定詞を使った表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 6 不定詞の表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 不定詞を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	7
	Lesson 7 食について考える Lesson 8 ICTとバリアフリー社会について考える 【知識及び技能】 Lesson 7 動名詞について学んで理解する。 Lesson 8 分詞について学んで理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 動名詞・分詞を使った表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 7 動名詞の表現 Lesson 8 分詞の表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 不定詞を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	Lesson 9 世界平和に貢献した人々について知る Lesson 10 世界の国々について知る 【知識及び技能】 Lesson 9 関係代名詞について学んで理解する。 Lesson 10 関係副詞について学んで理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 関係代名詞・関係副詞を使った表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 9 関係代名詞の表現 Lesson 10 関係副詞の表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 関係代名詞・関係副詞を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	7
	Lesson 11 健康と生活について考える 【知識及び技能】 Lesson 11 比較について学んで理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 比較を使った表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 11 比較の表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 比較を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	Lesson 12 様々な立場に立って考える 【知識及び技能】 Lesson 12 仮定法について学んで理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 仮定法を使った表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 12 仮定法の表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 仮定法を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	9
	Lesson 13 文化と認知の関係について知る Lesson 14 ニュースなどの内容を伝える 【知識及び技能】 Lesson 13 否定・疑問文について学んで理解する。 Lesson 14 時制の一致・話法について学んで理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現在・過去・未来の表し方や完了形を使った表現を身に着ける。授道程を用いた表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 13 否定・疑問文の表現 Lesson 14 時制の一致・話法を使った表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 否定・疑問文や時制の一致・話法を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	8
	Lesson 15 自分らしい生き方について考える 【知識及び技能】 Lesson 15 無生物主語・強調構文について学んで理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 無生物主語や強調構文を使った表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 15 無生物主語・強調構文を使った表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 無生物主語・強調構文を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	1
	定期考査			○	○		合計
				○	○		70

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎 単位数： 2 単位
対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 5 組
教科担当者： （1組：松永、柏木） （2組：松永、柏木） （3組：松永、柏木） （4組：松永、柏木） （5組：松永、柏木）
使用教科書： （ 図説家庭基礎 ）

教科 家庭	の目標：	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。
【知識及び技能】		人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】		家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことに根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。□
【学びに向かう力、人間性等】		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。□
科目 家庭基礎	の目標：	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことに根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。□

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第7章 住生活をつくる□ （知識・技能）□ ・住まいの機能や文化を理解できる□ ・災害とその対策について理解できる□ （思考・判断・表現）□自然災害に対して、防災・減災対策を考えることができる□ （学びに向かう力、人間性等）□ ・住まいにおいて、課題を見つけ、改善に向けて積極的に取り組む態度を養う□	第7章 住生活をつくる□ 指導事項□ ・人と住まいのかかわり□ ・平面計画□ ・ライフステージと住まいの計画□ ・健康に配慮した住まい□ ・安全な住まい□ ・持続可能な住まい□ ・これからの住まい□	（知識・技能）□ ワーク・定期考査□ （思考・判断・表現）□ ワーク・定期考査□ （学びに向かう力、人間性等）□ ワーク・レポート・出席数□	○	○	○	8
	第1章自分らしい生き方と家族□ （知識・技能）□ ・ライフステージ、発達課題、ライフイベントを関連させて理解することができる□ ・4つの自立について理解できる□ （思考・判断・表現）□ ・自分のライフコースを考えることができる□ ・自分にとっての家族について考えられる□ （学びに向かう力、人間性等）□ ・職業について近い将来のことという意識をもって積極的に学習に臨む□ ・将来の自分が作る家族について考えようとする□	第1章自分らしい生き方と家族□ 指導事項□ ・人生□ ・青年期・労働□ ・生活時間・男女共同参画社会□ ・家族・社会環境の変化や課題□ ・家族に関わる法律□	（知識・技能）□ ワーク・定期考査□ （思考・判断・表現）□ ワーク・定期考査□ （学びに向かう力、人間性等）□ ワーク・レポート・出席数□	○	○	○	6
	第3章 高齢者とかかわる□ （知識・技能）□ ・現在の高齢社会について理解する□ ・介護の課題を理解する□ （思考・判断・表現）□ ・高齢期について自分と結びつけながら考えようとする□ （学びに向かう力、人間性等）□ ・高齢者へのインタビューなどを行い、理解を深めようとする。□	第3章 高齢者とかかわる□ 指導事項□ ・高齢社会・高齢者□ ・介護・制度□	（知識・技能）□ ワーク・定期考査□ （思考・判断・表現）□ ワーク・定期考査□ （学びに向かう力、人間性等）□ ワーク・レポート・出席数□	○	○	○	6
	第4章 社会とかかわる□ （知識・技能）□ ・社会福祉の重要性を理解する□ ・福祉制度、社会保障制度について、生活課題と関連させながら理解できる□ （思考・判断・表現）□ ・支えあう活動への興味・関心を持って、調査・参加しようとしている。□ （学びに向かう力、人間性等）□ ・地域の福祉について調査を行い、自分でできることについて考え、まとめることができる□	第4章 社会とかかわる□ 指導事項□ ・共生・社会保険制度□ ・社会の一員としての役割□	（知識・技能）□ ワーク・定期考査□ （思考・判断・表現）□ ワーク・定期考査□ （学びに向かう力、人間性等）□ ワーク・レポート・出席数□	○	○	○	2

2 学 期	第5章 食生活をつくる□ (知識・技能) □ ・健康と食生活のかかわりを理解できる□ ・栄養素の体の中での働きについての基礎的知識を習得できる□ ・食品を適切に選択することができる□ ・日本の食生活の現状・課題について理解できる□ (思考・判断・表現) □ ・食生活の安全性について考えることができる□ ・食品ロスに配慮した調理実習をできる□ (学びに向かう力,人間性等) □ ・調理実習において積極的に参加しようとしている□	第5章 食生活をつくる□ 指導事項□ ・食生活と健康・栄養素□ ・食品の選択と表示・食品の衛生□ ・食料自給率・食の未来と環境への取り組み□ ・食事摂取基準・献立作成□ ・調理の基本□	(知識・技能) □ ワーク・定期考査□ (思考・判断・表現) □ ワーク・定期考査□ (学びに向かう力,人間性等) □ ワーク・レポート・調理実習・出席数□ □	○	○	○	14
	第6章 衣生活をつくる□ (知識・技能) □ ・衣服の起源について理解できる□ ・衣服素材の保温性や通気性などの特徴を知る (思考・判断・表現) ファストファッションの問題点を把握し,行動を見直すことができる (学びに向かう力,人間性等) □ 実習に積極的に参加しようとしている□□ □ □	第6章 衣生活をつくる□ 指導事項□ ・人と衣服のかかわり・健康で安全な衣服□ ・衣服素材・衣生活の計画□ ・衣服の管理・持続可能な衣生活□□ □	(知識・技能) □ ワーク・定期考査□ (思考・判断・表現) □ ワーク・定期考査□ (学びに向かう力,人間性等) □ ワーク・レポート・実習・出席数□	○	○	○	14
3 学 期	第8章 経済的に自立する□ (知識・技能) □ ・家計の構成がわかる□ ・長期的な経済設計が立てられるようになる□ (思考・判断・表現) □ 給与の使い方をシミュレーションし考えることができる□ (学びに向かう力,人間性等) □ ライフイベントや生活のリスクについて思考することができる□	第8章 経済的に自立する□ 指導事項□ ・収入・支出を把握する・社会と家計の変化□ ・長期的な経済計画・家計□□ □	(知識・技能) □ ワーク・定期考査□ (思考・判断・表現) □ ワーク・定期考査□ (学びに向かう力,人間性等) □ ワーク・レポート・出席数□	○	○	○	6
	第9章 消費行動を考える□ (知識・技能) □ ・契約のしくみを理解できる□ ・販売方法の種類や内容について知識が身についている□ (思考・判断・表現) □ ・問題商法の被害を未然に防いだり,早期に解決するための方法について思考・判断ができる□ (学びに向かう力,人間性等) □ ・SDG sについて,身近な例をもとに思考・判断できる□	第9章 消費行動を考える□ 指導事項□ ・契約と主体的な消費行動□ ・問題商法・法律□ ・支払い方法・消費者の権利と責任□ ・持続可能な社会□	(知識・技能) □ ワーク・定期考査□ (思考・判断・表現) □ ワーク・定期考査□ (学びに向かう力,人間性等) □ ワーク・レポート・出席数□	○	○	○	6
	第2章 子どもとかかわる□ (知識・技能) □ ・子どもの発達について理解する□ ・保育やかかわりの重要性を理解する□ (思考・判断・表現) □ ・どのようなかかわり方がいいか考えようとする□ (学びに向かう力,人間性等) □ ・自分の将来と結び付けながら考え,学習しようとする□	第2章 子どもとかかわる□ 指導事項□ ・誕生・発達□ ・生活習慣と健康・食生活衣生活□ ・遊び・親になること□ ・環境・法律・制度□	(知識・技能) □ ワーク・定期考査□ (思考・判断・表現) □ ワーク・定期考査□ (学びに向かう力,人間性等) □ ワーク・レポート□	○	○	○	8
							合計
							70